

ライフセービング概論

ライフセービングに関わる各種数値データ

JLAアカデミー本部／JLA溺水防止救助救命本部

作成日：2020年4月

JLAの最大のミッションとは？

水辺の事故ゼロ

水辺の事故の現状は？

日本の溺水事故の現状の整理

■ 溺水とは？

・ Drowning is “The process of experiencing respiratory impairment from submersion/immersion in liquid”. Where that impairment leads to death, we note that the person has drowned.

溺水とは、“液体への潜水/没入から呼吸障害を起こす過程”である。この呼吸障害によって死亡した場合、我々は人が溺死した認識する。

(DROWNING PREVENTION STRATEGIES, ILS, 2008より)

・ 溺水と溺死

傷病者の身体全体や気道入口部(口腔・鼻腔)が液体に浸かって呼吸障害を生じた状態、及びその過程を溺水(drowning)という。「浸漬:しんせき

(submersion)」とは体全体が液体に沈んで没した状態、「浸水(immersion)とは気道入口部が液体に浸かっている状態をいう。言い換えれば、溺水とは浸漬や浸水によって窒息することである。溺水によって死亡することを溺死という。

(改定第9版救急救急士 標準テキスト へるす出版 2015より)

溺水に関するデータ

8,999

この数字は何？

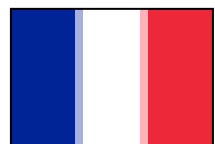
- WHOのglobal report on drowning 2014による日本の溺水死者数（2011年）
- ロシア（11,981人）について**世界第2位**

注）自殺者含む

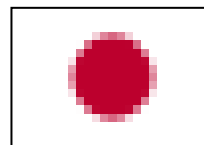
V90	溺死又は溺水を生じた船舶事故
V92	船舶事故を伴わない、水上交通機関の関係した溺死及び溺水 (W65-W74) 不慮の溺死及び溺水
X71	溺死及び溺水による故意の自傷及び自殺
X92	溺水による加害にもとづく傷害及び死亡
Y21	溺死及び溺水、不慮か故意か決定されないもの

日本の溺水事故の現状の整理

溺死者数（対10万人）国際比較（WHO2014）*2008年



フランス 1.6人



日本 3.2人



アメリカ 1.2人*



カナダ 1.2人

豪州 1.4人



イタリア 0.7人

韓国 2.6人



ドイツ 0.6人

インド 5.9人*



イギリス 0.8人

中国 5.7人*

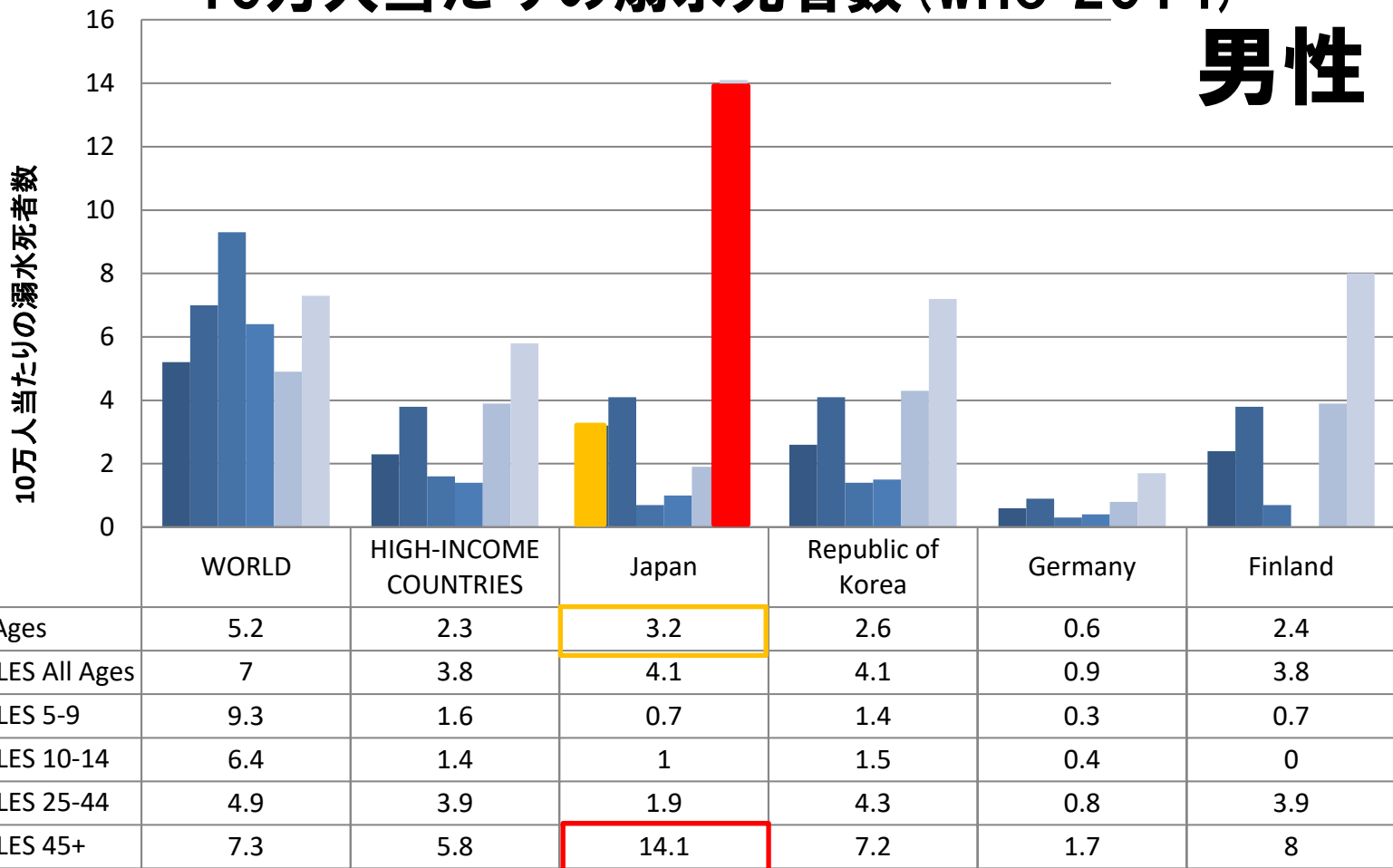
タイ 7.3人

data: World Health Organization「WHO Global Report on Drowning」(2014)より作成

日本の溺水事故の現状の整理

10万人当たりの溺水死者数 (WHO 2014)

男性

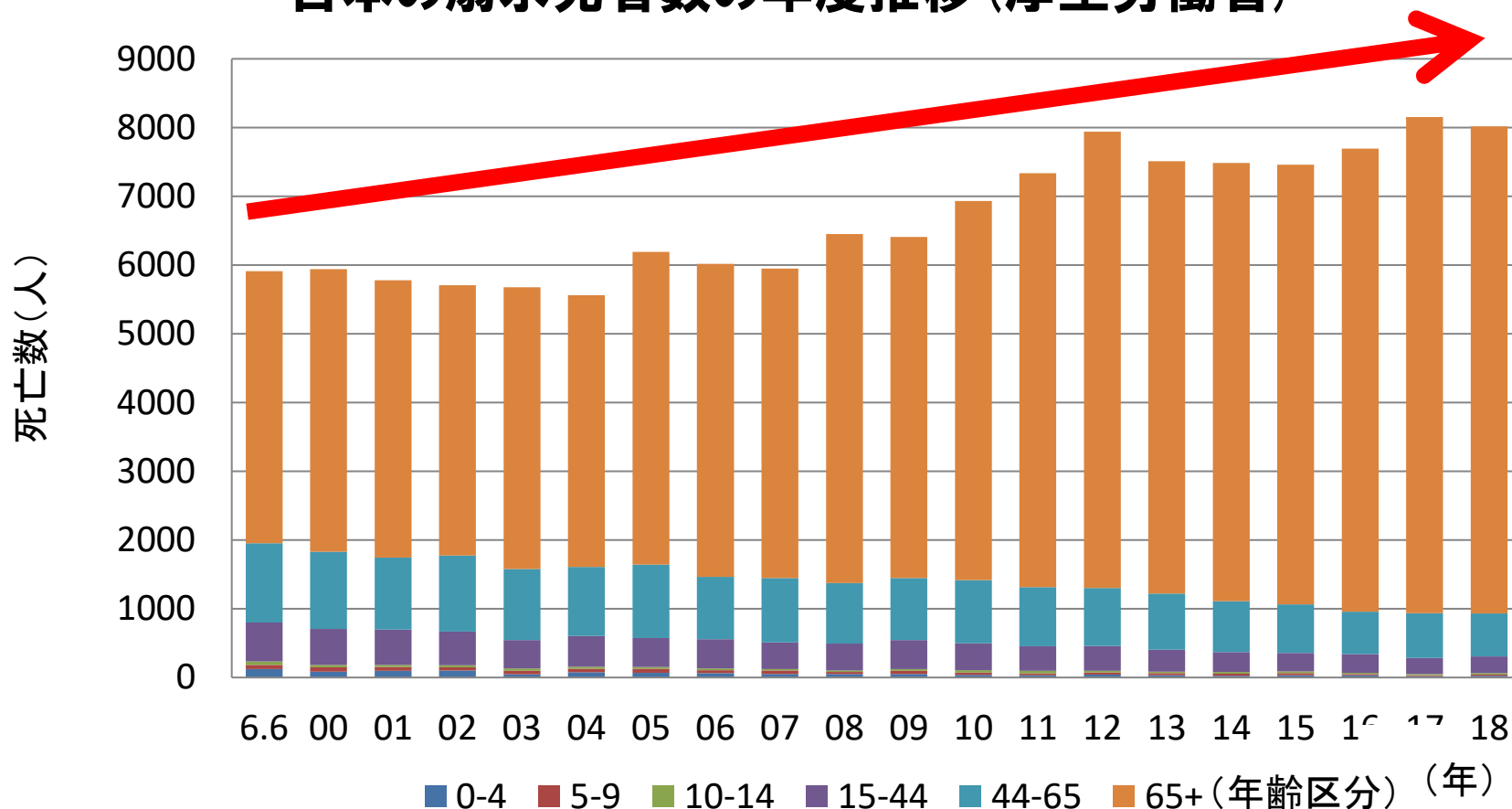


data: World Health Organization「WHO Global Report on Drowning」(2014)より作成

- 他の高所得国に比べ日本の溺水死者数は高い。
- 特に45歳以上の数値が高い

日本の溺水事故の現状の整理

日本の溺水死者数の年度推移 (厚生労働省)

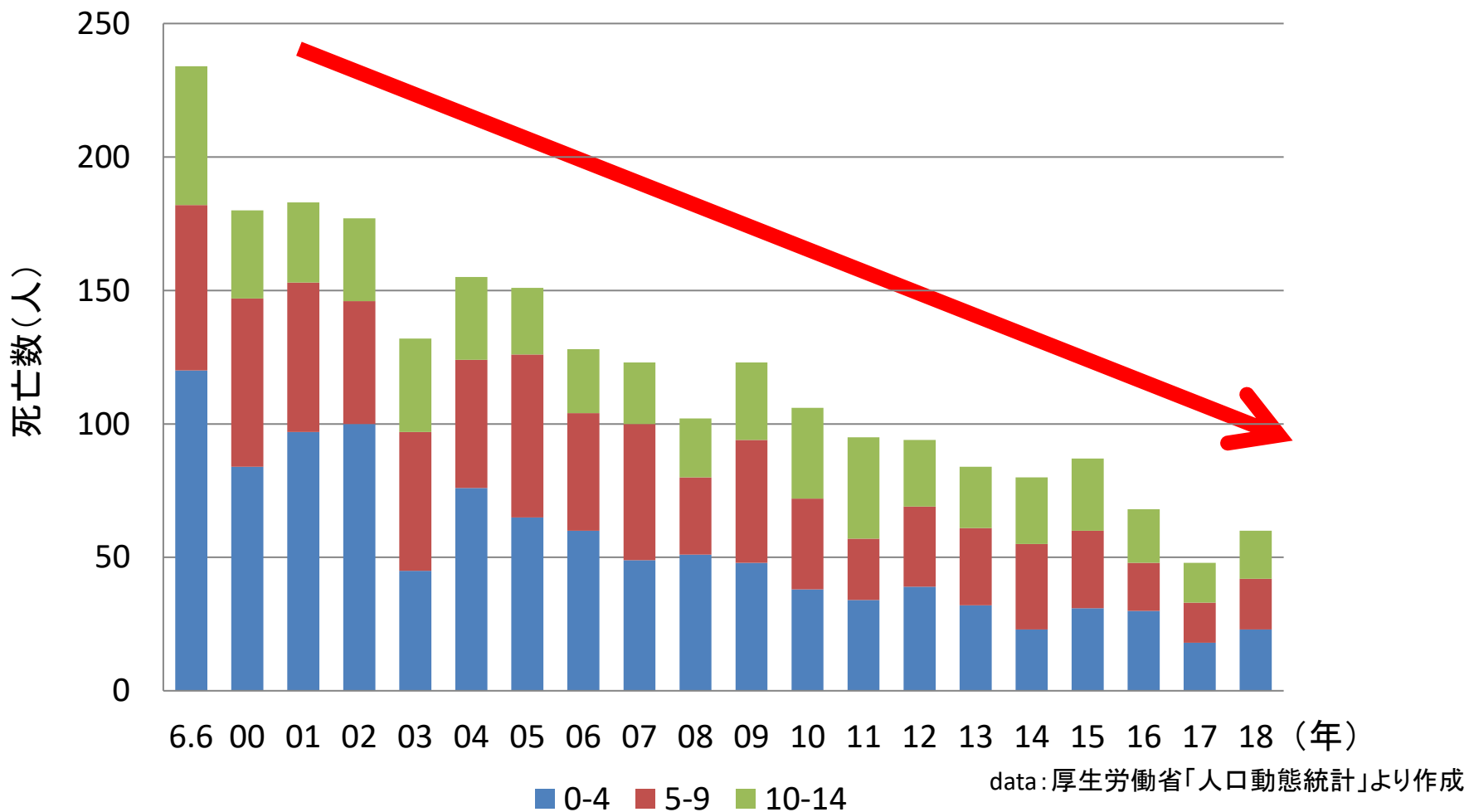


data: 厚生労働省「人口動態統計」より作成

- 年間:**8,021人**(2018年)
- 増加傾向である(特に65歳以上).
- 3,931人(1999年) → 7,088人(2018年): 65歳以上
- 66.6%(1995年) → 88.4%(2018年): 65歳以上の割合

日本の溺水事故の現状の整理

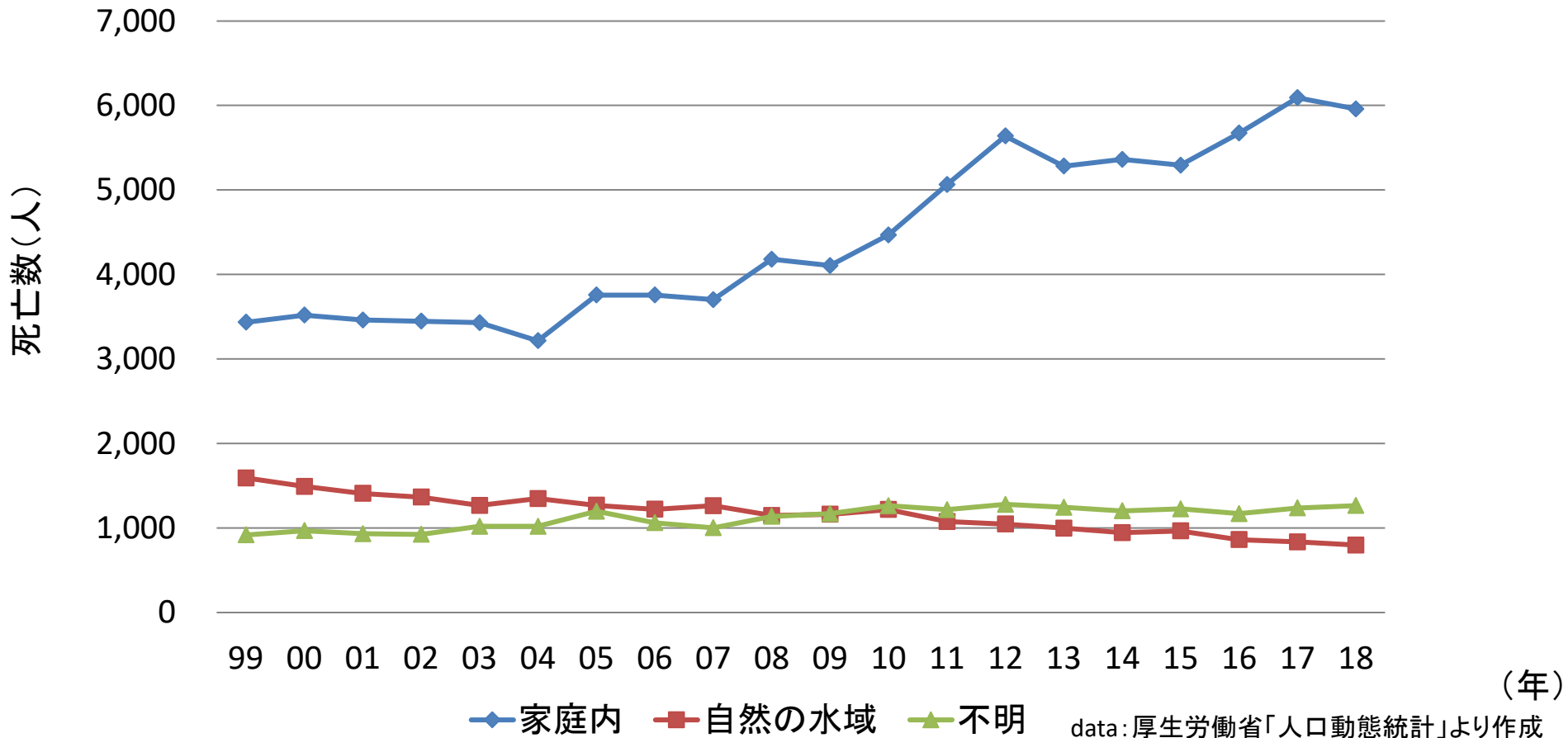
日本の0-14歳の溺水死者数の年度推移 (厚生労働省)



- 減少傾向
- 234人 (1999年) → 60人 (2018年) : 0-14歳

日本の溺水事故の現状の整理

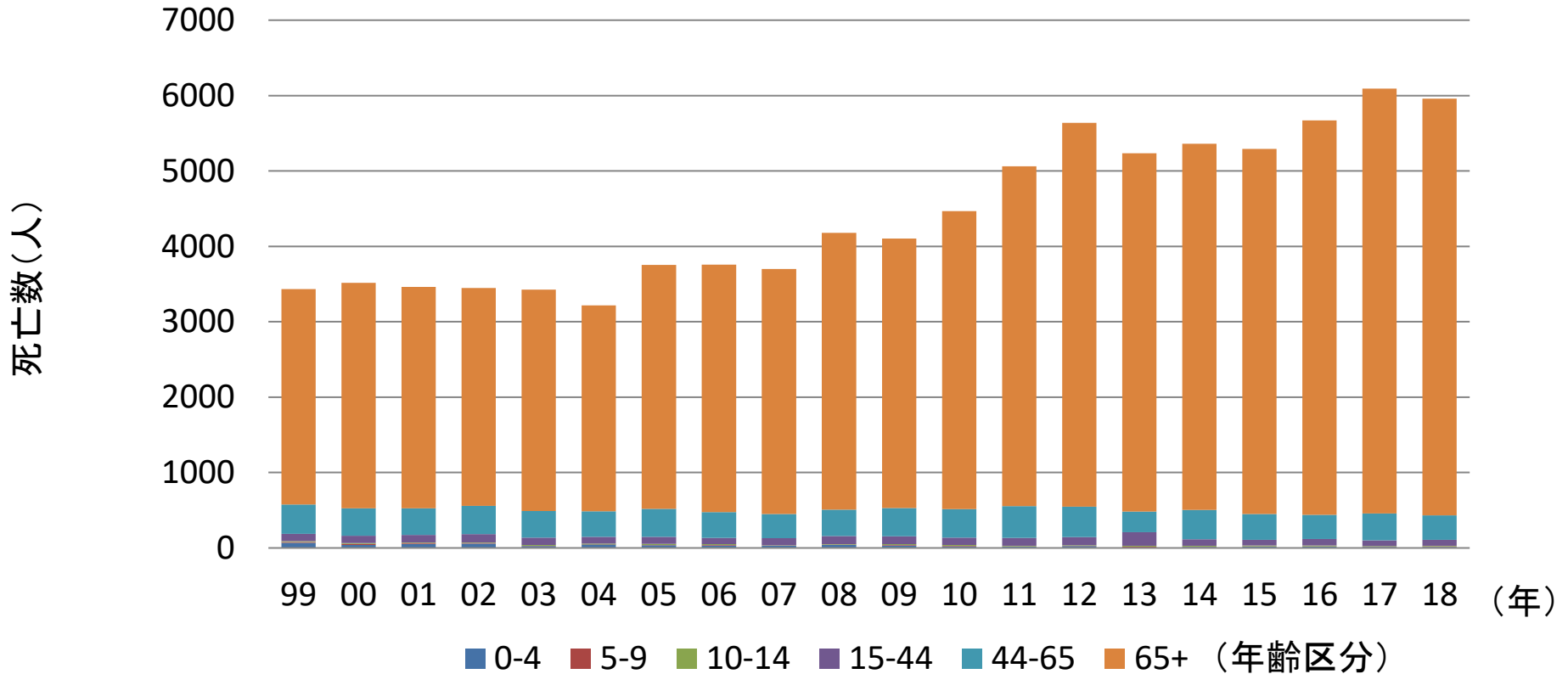
日本の場所別の溺水死者数の年度推移 (厚生労働省)



- **家庭内は増加傾向**
 - 3,434 人 (1999年) → 5,958 人 (2018年)
- **屋外(自然の水域内での及び自然の水域)は減少傾向.**
 - 1,591 人 (1999年) → 798人 (2018年)

日本の溺水事故の現状の整理

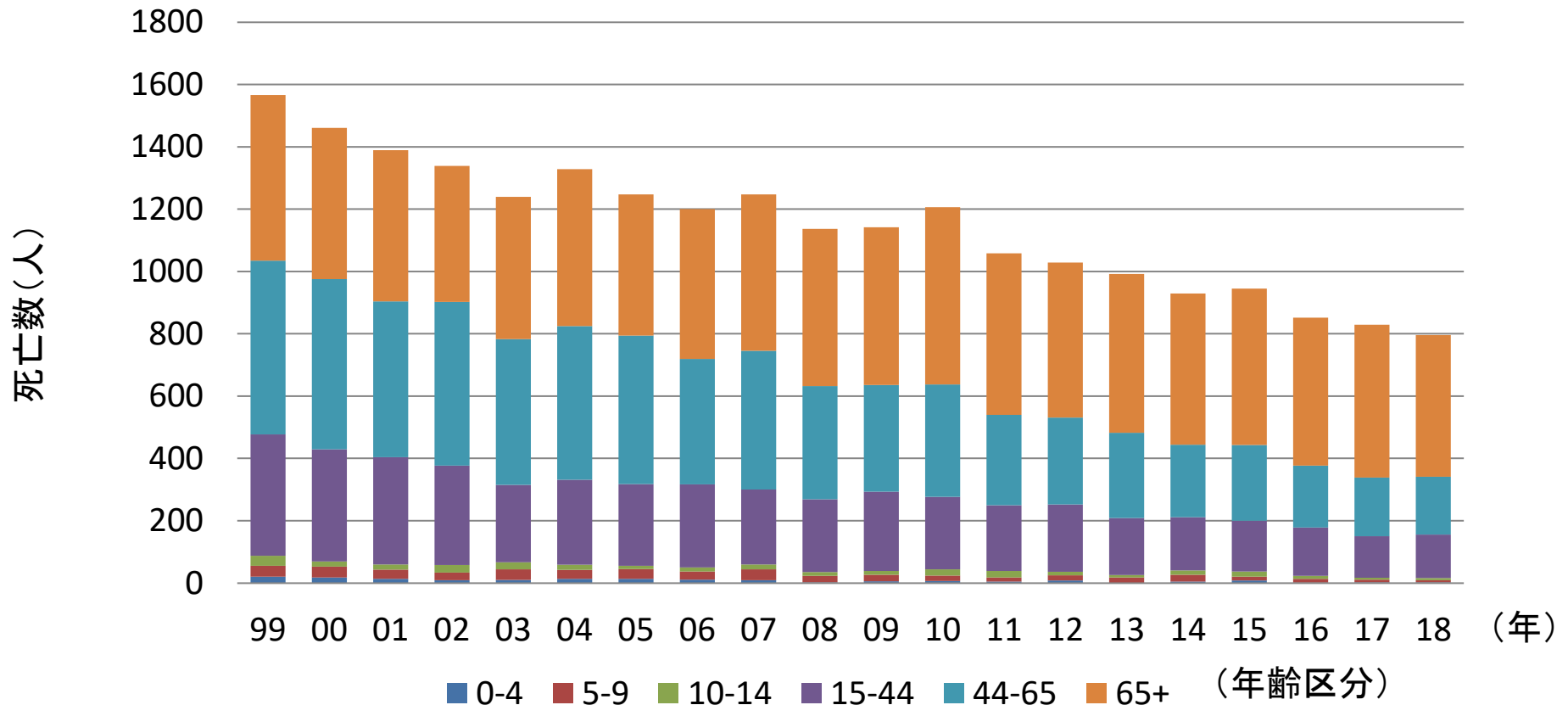
家庭内の年齢別溺水死者数の年度推移 (厚生労働省)



- **65歳以上の割合が高い** → **92.7%(2018年)** data: 厚生労働省「人口動態統計」より作成
- **65歳以上が増加傾向**
 - **2,856人(1999年)** → **5,526人(2018年)**
- **65歳以下は減少傾向**
 - **577人(1999年)** → **432人(2018年)**

日本の溺水事故の現状の整理

屋外の年齢別溺水死者数の年度推移 (厚生労働省)

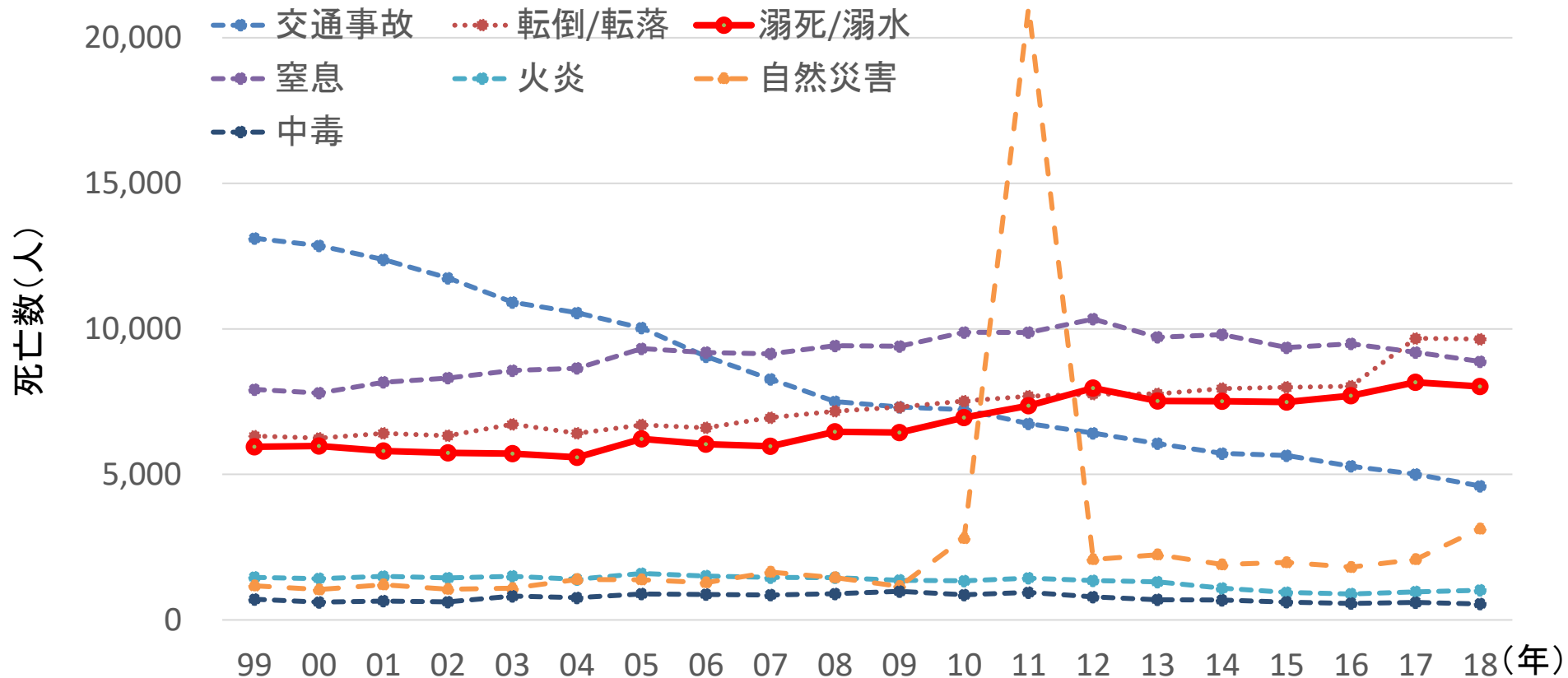


data: 厚生労働省「人口動態統計」より作成

- 65歳以下の割合が高い → 43%(2018年)
- 65歳以上は僅かに減少傾向
 - 531人(1999年) → 455人(2018年)
- 65歳以下は大きく減少傾向
 - 1,035人(1999年) → 341人(2018年)

日本の溺水事故の現状の整理

主な不慮の事故の種類別に見た死亡数(厚生労働省)



data: 厚生労働省「人口動態統計」より作成

- ・ 溺水は99年5,943人から18年8,021人と増減を繰り返しながら増加傾向
- ・ 交通事故は99年13,111人から18年4,595と減少傾向
- ・ **交通事故より溺水の方が死亡原因としては多い!**

交通安全思想の普及徹底予算

▶ 第1表 陸上交通安全対策関係予算分野別総括表

(単位: 百万円)

事 項	平成28年度 当初予算額	平成29年度 当初予算額	平成30年度 当初予算額	比 較 増減額	平成28年度 決 算 額
2 交通安全思想の普及徹底	352	420	400	▲20	238
(1) 交通安全思想普及推進事業(内閣府)	50	48	49	1	45
(2) 交通安全教育・普及活動の推進(警察庁)	10	17	17	—	—
(3) 交通安全教育指導等(文部科学省)	289	352	331	▲21	190
(4) 飲酒運転事犯者処遇の充実強化(法務省)	3	3	3	—	3

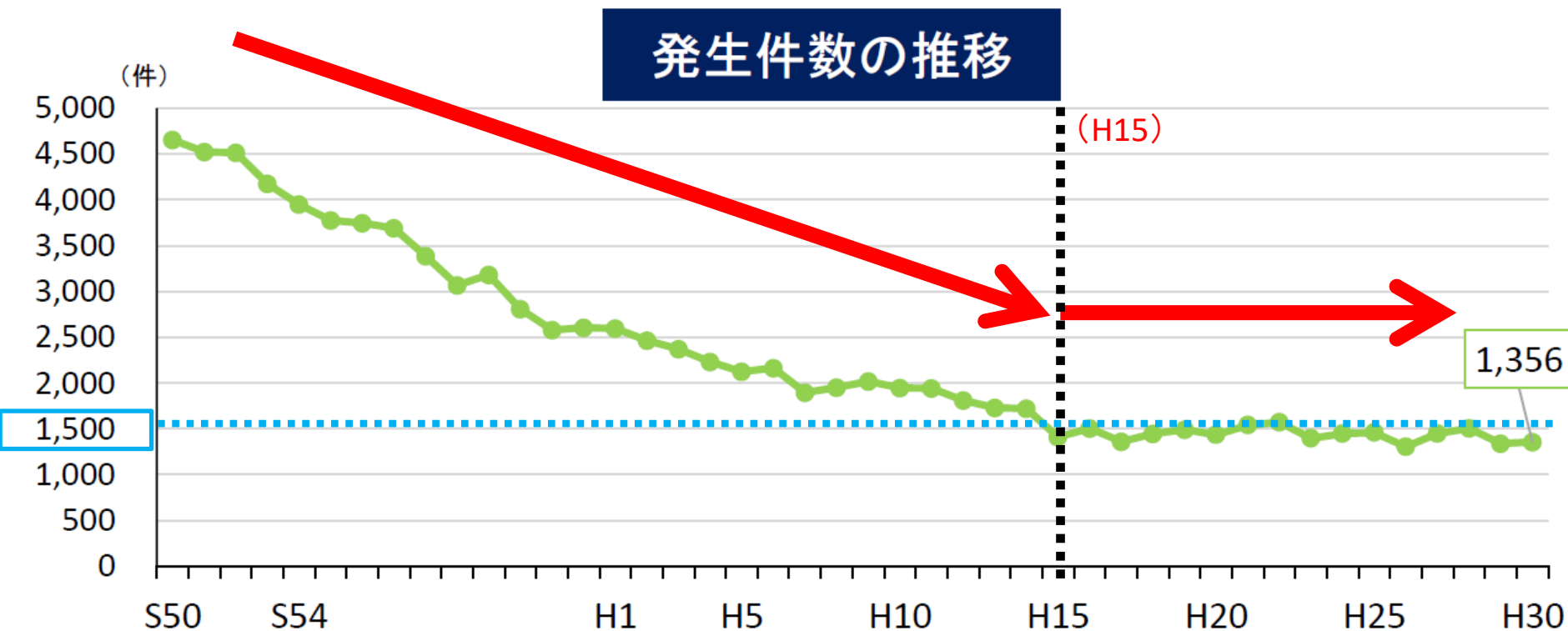
data: 内閣府「平成30年版交通安全白書」

・ H30年度予算 4億円
(内閣府・警察庁・文科省・法務省)

・ 水辺の事故安全思想の普及徹底予算ってある??

日本の溺水事故の現状の整理

・水難事故発生状況(警察庁)



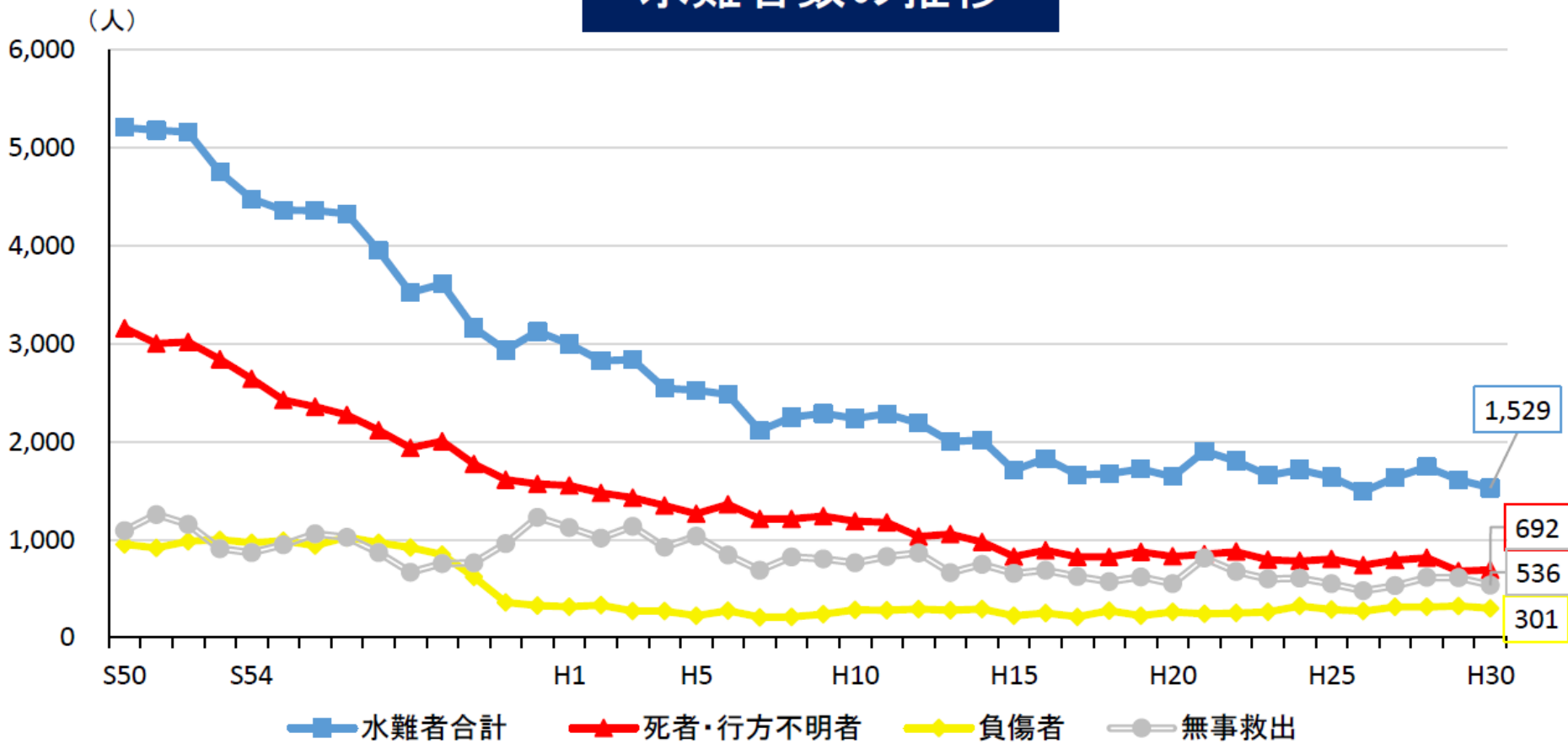
data: 警察庁「平成30年における水難の概況」

- ・ 2003年(H15)までは、減少傾向
- ・ 2003年(H15)以降は1,500件前後で横ばい

日本の溺水事故の現状の整理

・水難事故発生状況(警察庁)

水難者数の推移

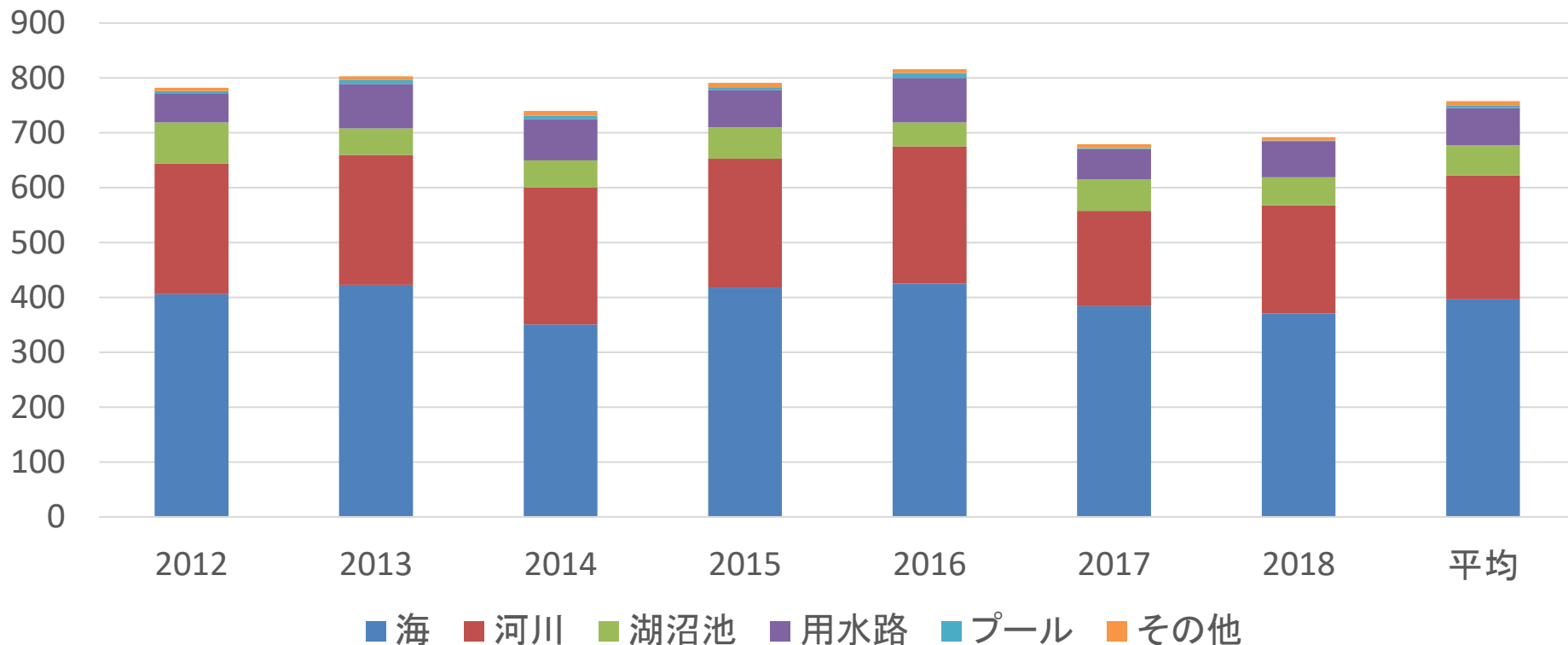


data: 警察庁「平成30年における水難の概況」

- ・ 2018年(H28)の水難者数は1,529人
- ・ 2018年(H28)の死者・行方不明者は692人

日本の溺水事故の現状の整理

・ 水難事故(死者・行方不明者):発生状況 場所別(警察庁)

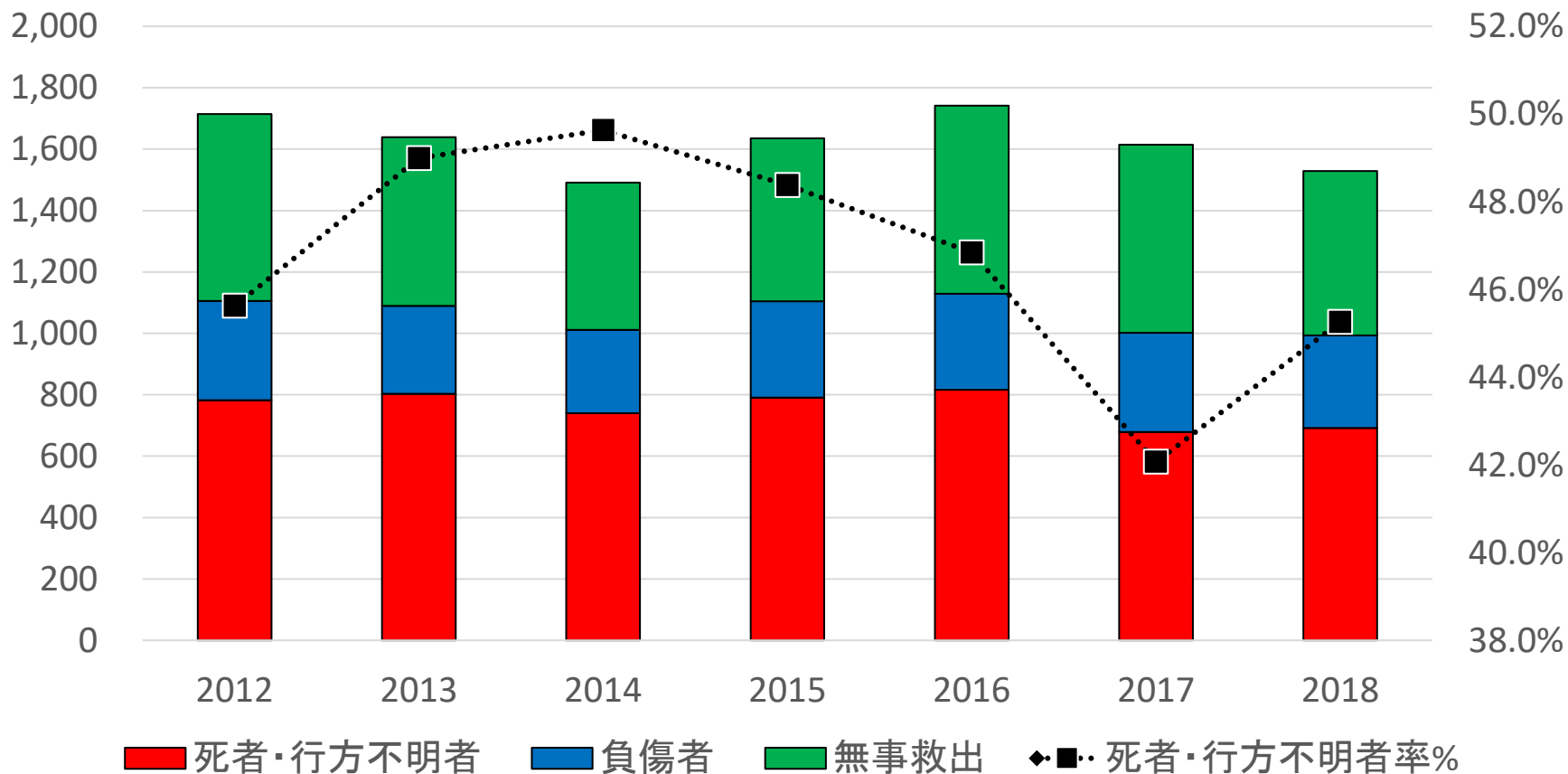


data: 警察庁「平成28-30年における水難の概況」

- ・ 平均は、海:397人、河川:226人、湖沼等:55人、用水路:68人、プール5人
- ・ 平均割合は、海:52.4%、河川:29.8%、湖沼等:7.2%、用水路:9.0%、プール:0.6%

日本の溺水事故の現状の整理

・水難事故：死者・行方不明者、負傷者、無事救出割合：（警察庁）



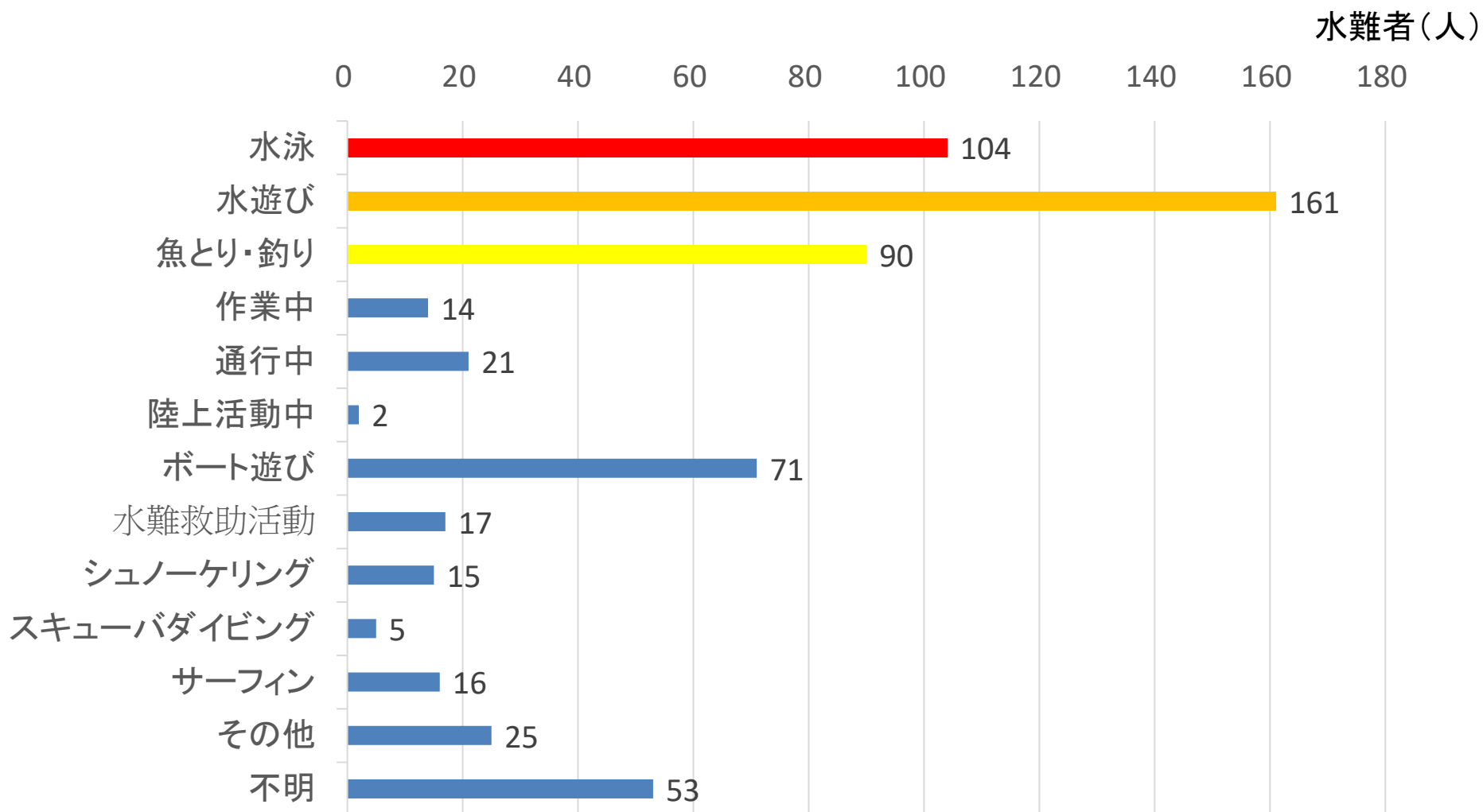
data: 警察庁「平成30年における水難の概況」

・水難事故に合うと約45%以上は、重大事故(死亡・行方不明)になる。

→事故を未然に防ぐことが重要

日本の溺水事故の現状の整理

・ 夏期(2020年7-8月)場所別水難者(警察庁 2020) 594人

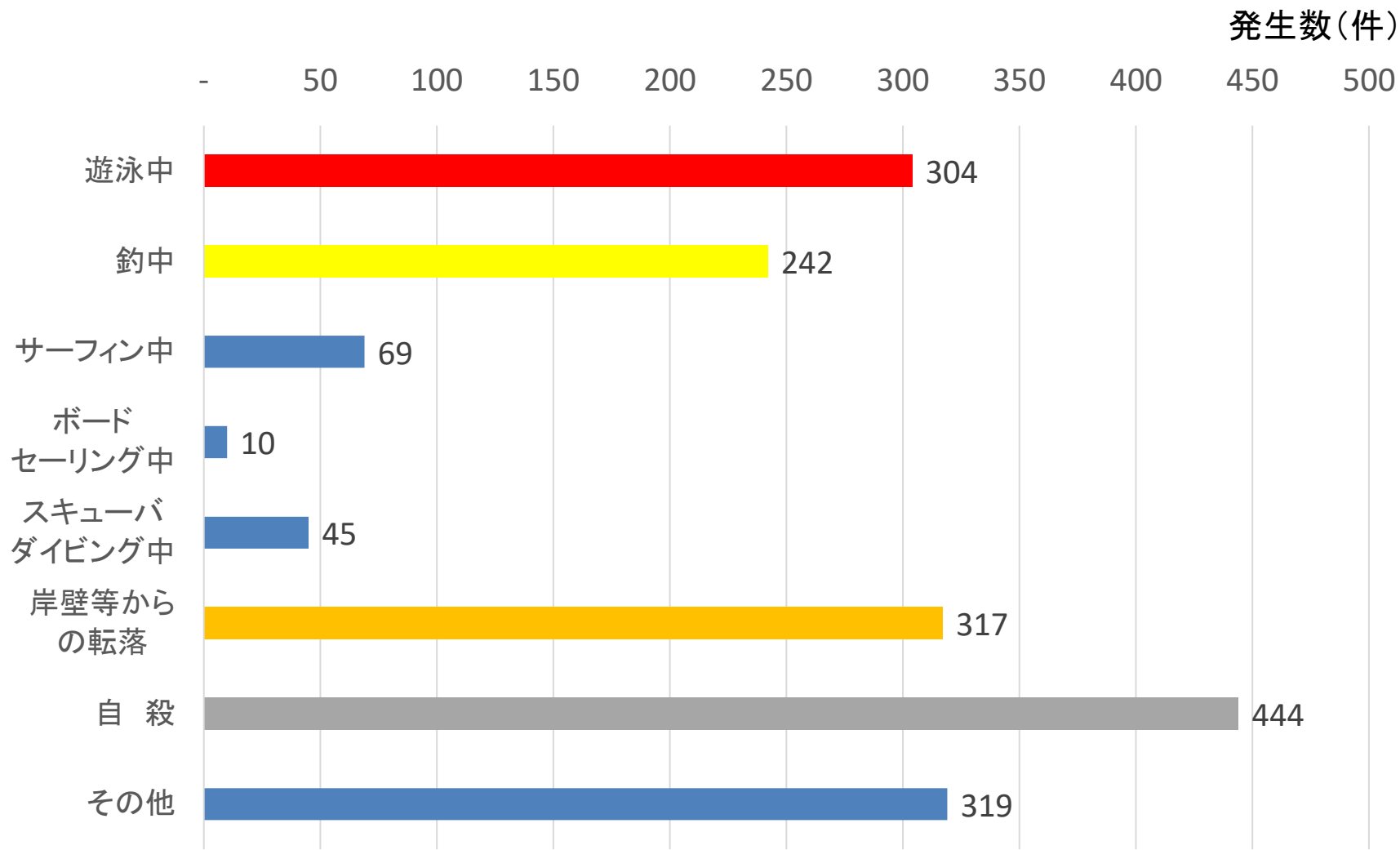


data: 警察庁「令和元年夏期における水難の概況」

・ 水泳, 水遊び, 魚とり・釣りの割合が高い

日本の溺水事故の現状の整理

・ 海浜事故等の発生数(海上保安庁 2018) 1,750件



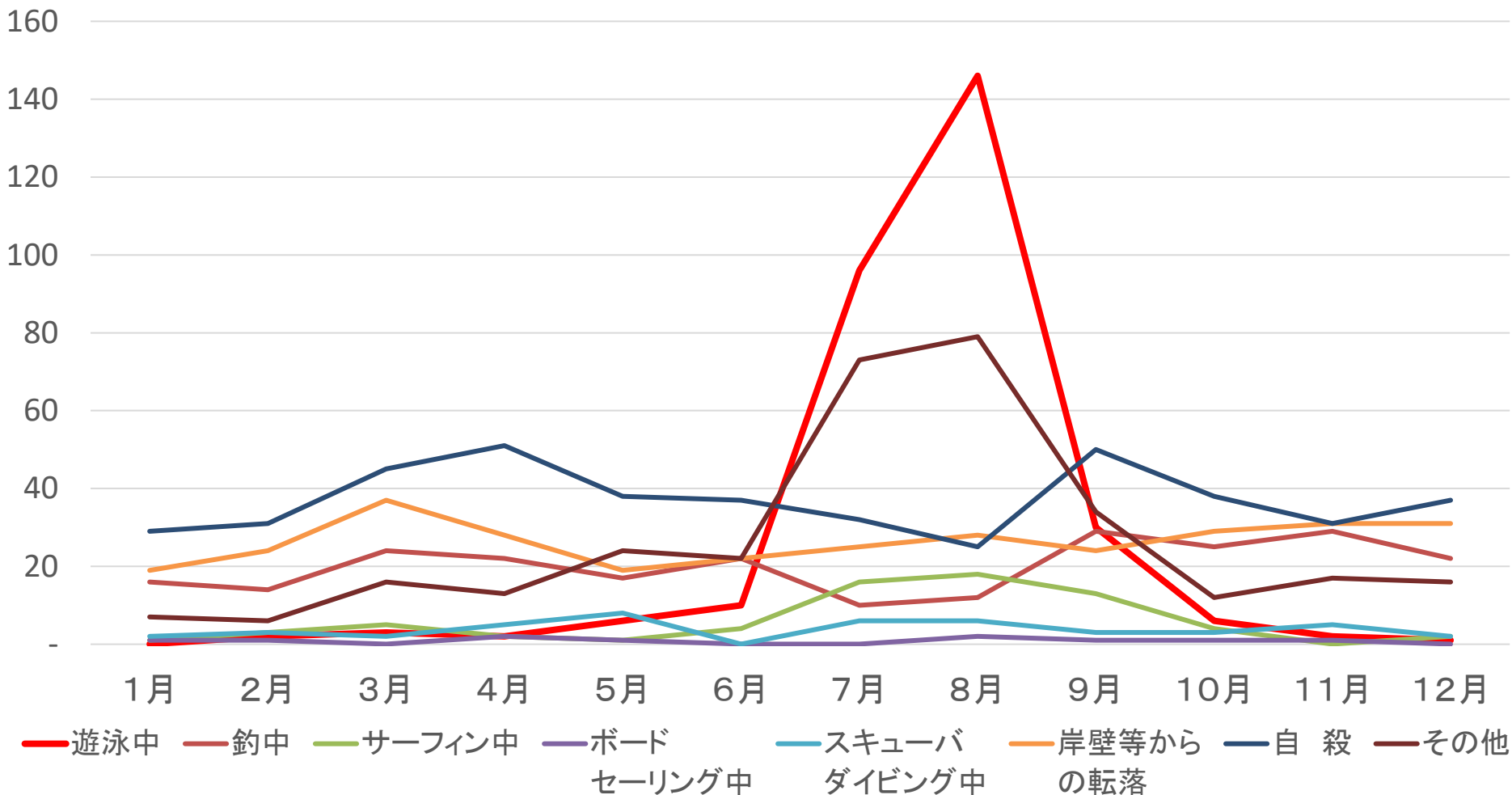
data: 海上保安庁「平成30年版 海上保安統計年報」より作成

・ 自殺、遊泳中、転落、釣中の順番に多い

日本の溺水事故の現状の整理

・ 海浜事故等の発生数(海上保安庁 2018) 1,750件

発生数(件)



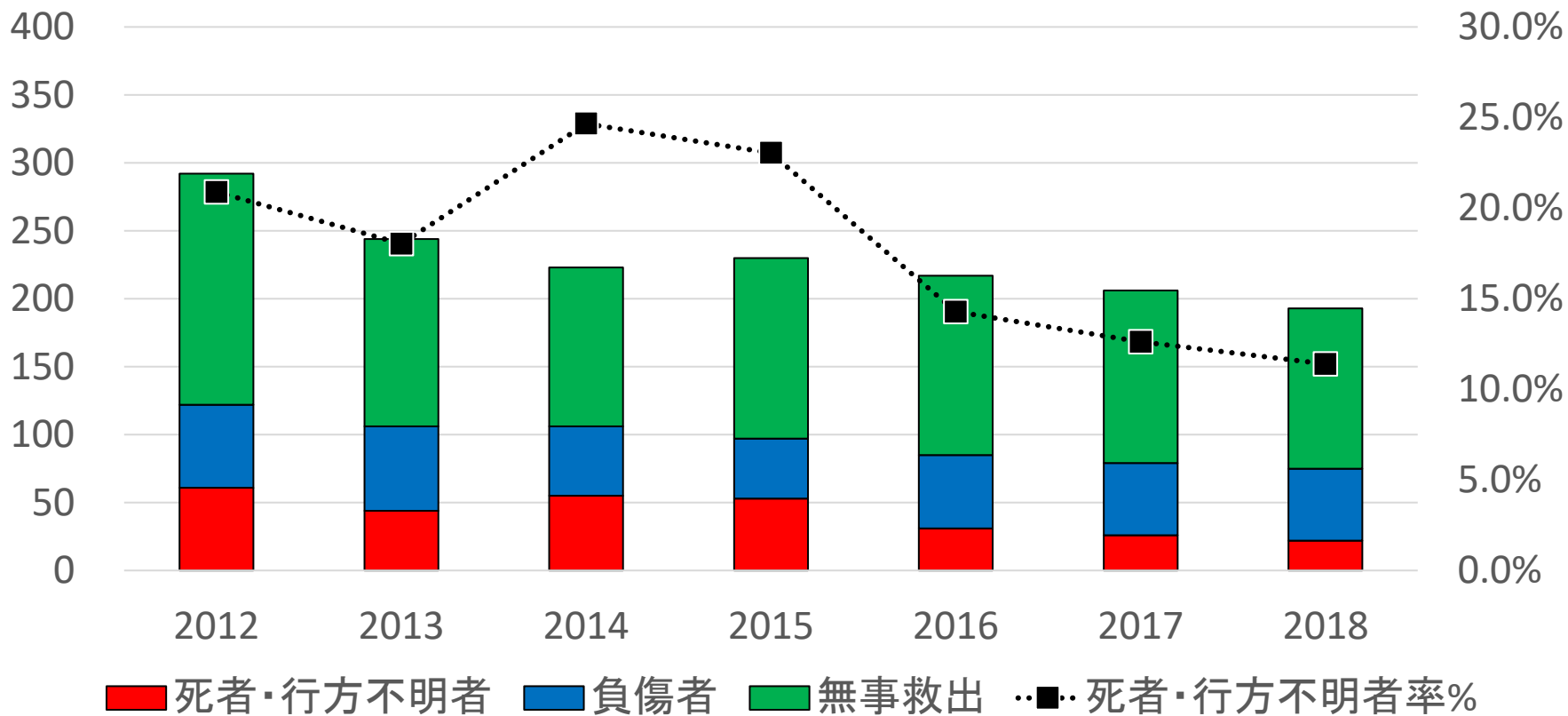
data: 海上保安庁「平成30年版 海上保安統計年報」より作成

・ 遊泳中は7-8月に集中している

子供の溺水に関するデータ

日本の溺水事故の現状の整理(子供)

・水難事故:死者・行方不明者、負傷者、無事救出割合:(警察庁)



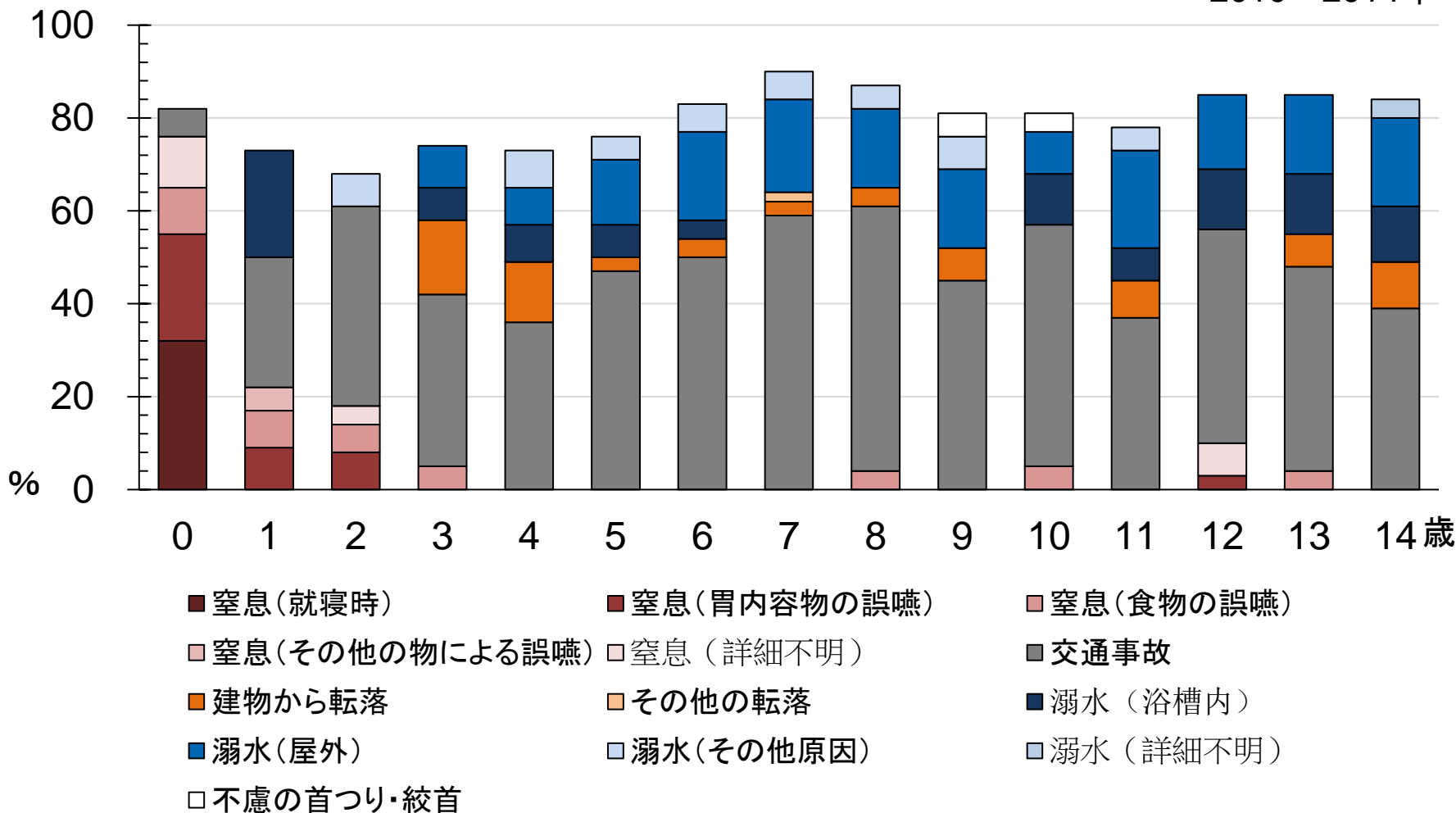
data: 警察庁「平成30年における水難の概況」

・水難事故に合うと約20%は、重大事故(死亡・行方不明)になる。

→事故を未然に防ぐことが重要

日本の溺水事故の現状の整理(子供)

2010~2014年

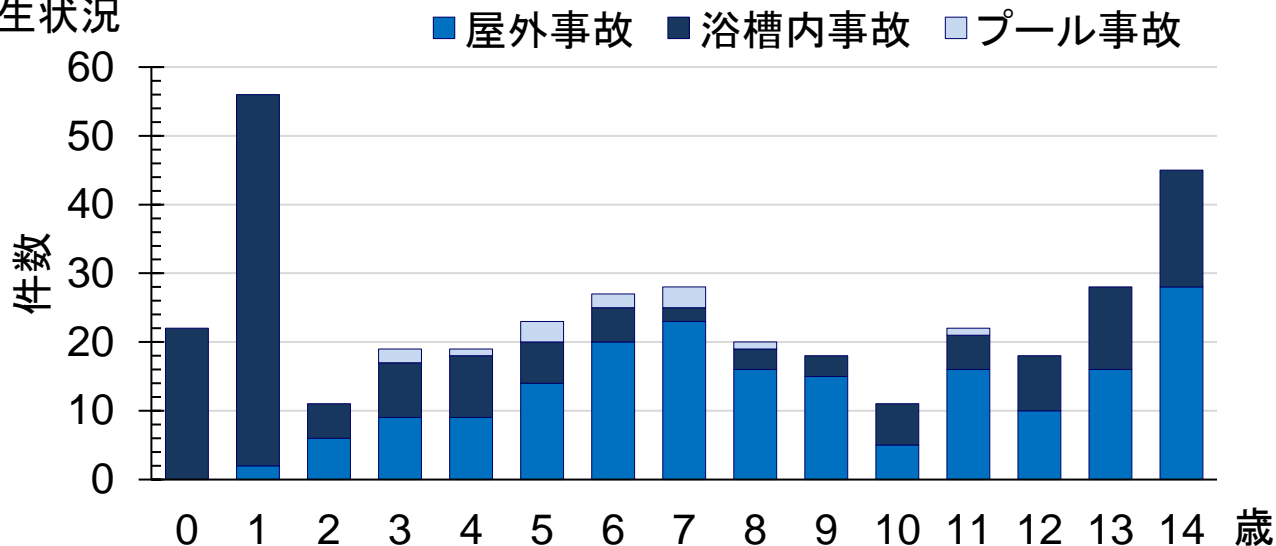


data: 子供の事故防止関係府省庁連絡会議資料 消費者庁消費者安全課(H28/11/2)より作成

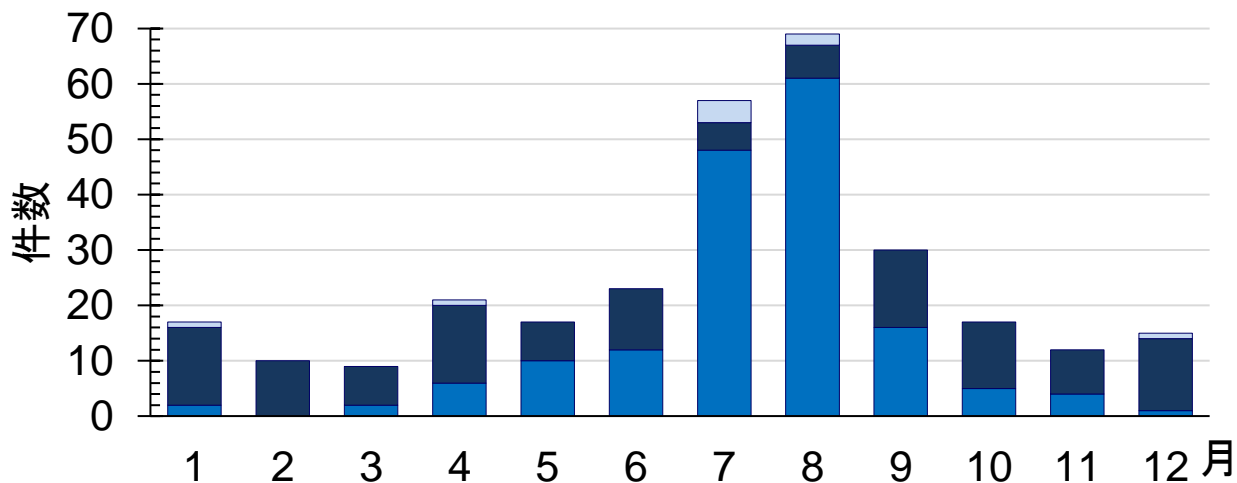
年齢別に多い死亡事故(上位5)

日本の溺水事故の現状の整理(子供)

(a) 年齢別発生状況



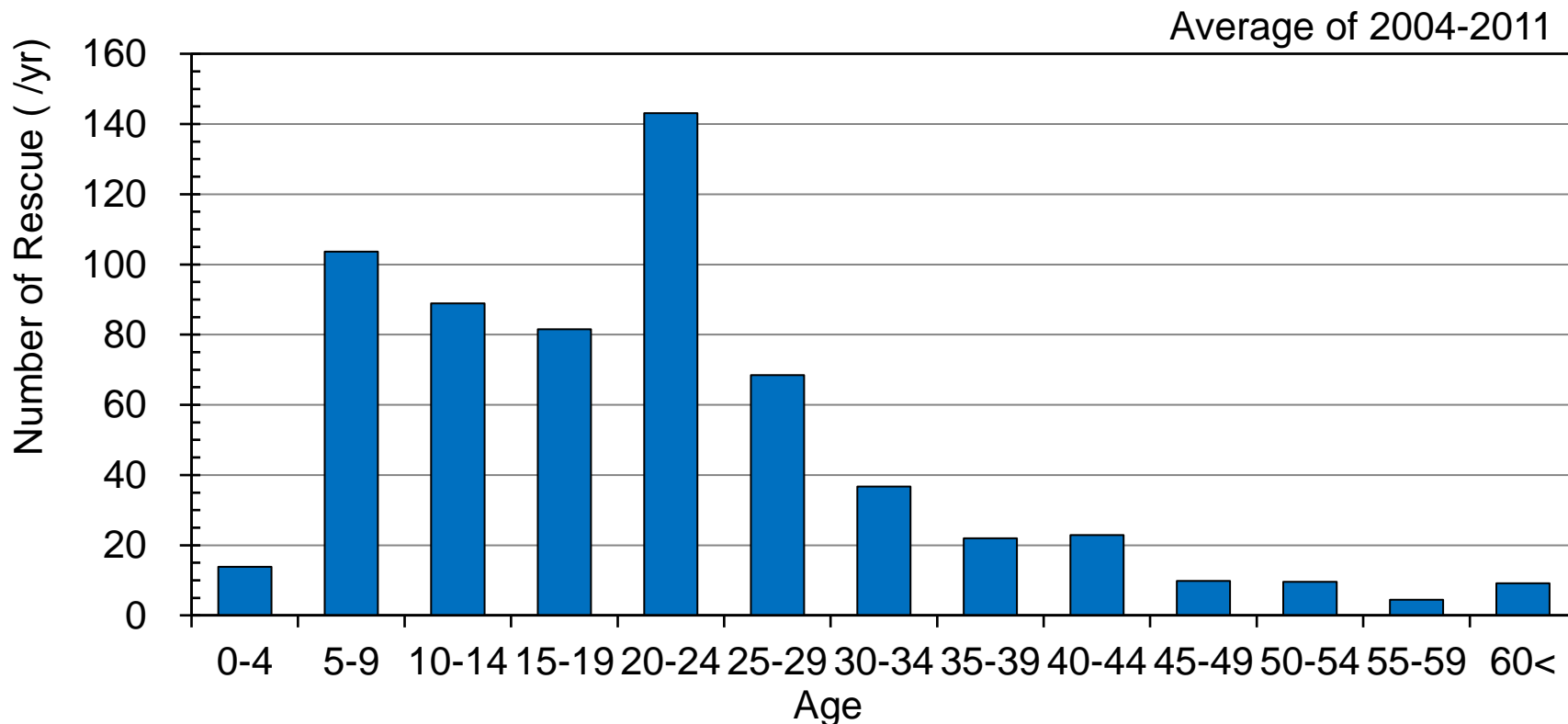
(b) 発生時期



data: 子供の事故防止関係府省庁連絡会議資料 消費者庁消費者安全課 (H28/11/2)より作成

子供の溺水事故の実態(2010~2014年)

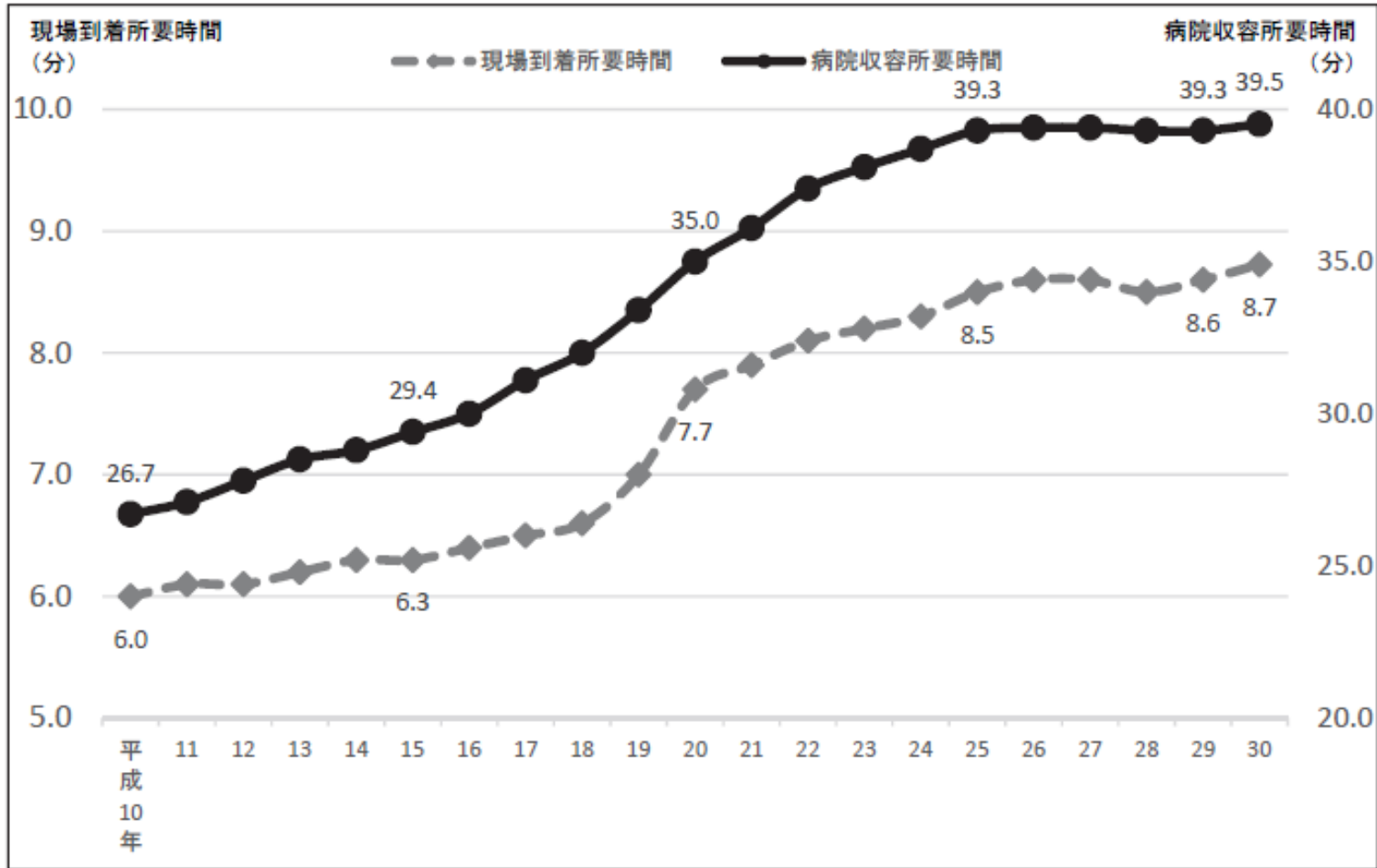
日本の溺水事故の現状の整理(子供)



海水浴場における年齢別の救助人数(JLAデータ)

BLS関係データ

119番通報から救急車の到着



出典：令和元年版 救急救助の現況 総務省消防庁

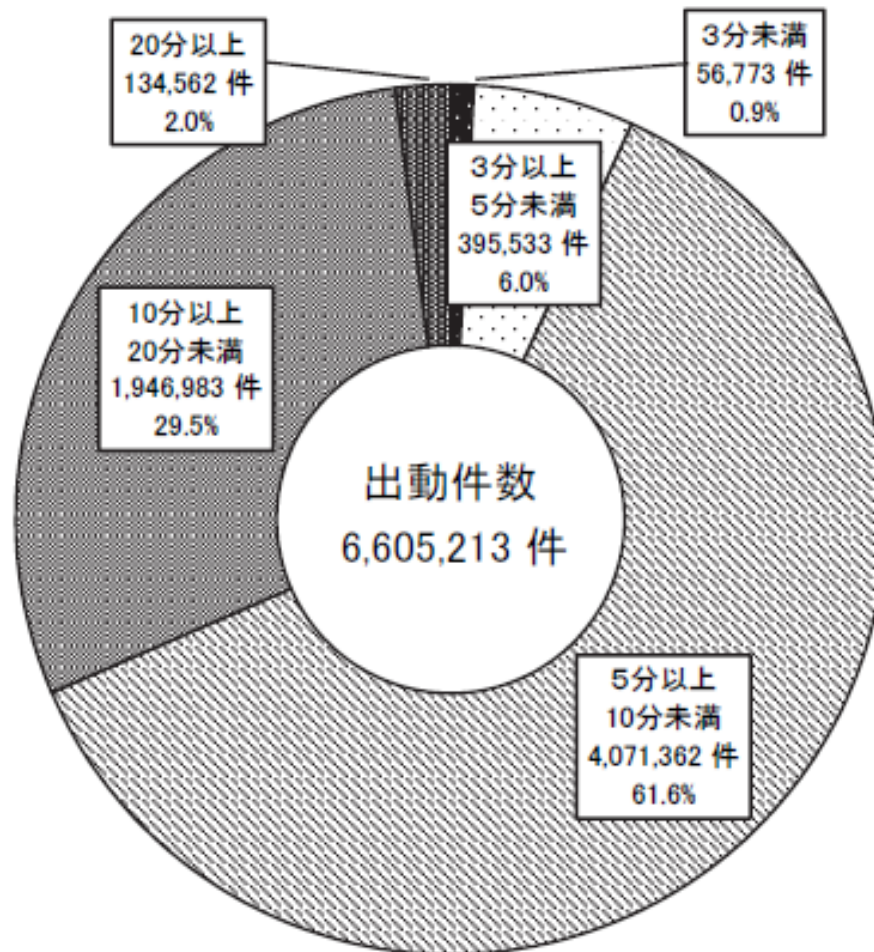
■現場への平均到着時間

- 8分36秒 (2015)
- 8分30秒 (2016)
- 8分36秒 (2017)
- 8分42秒 (2018)

■医療機関收容までの所要時間

- 39分24秒 (2015)
- 39分18秒 (2016)
- 39分18秒 (2017)
- 39分30秒 (2018)

119番通報から救急車の到着

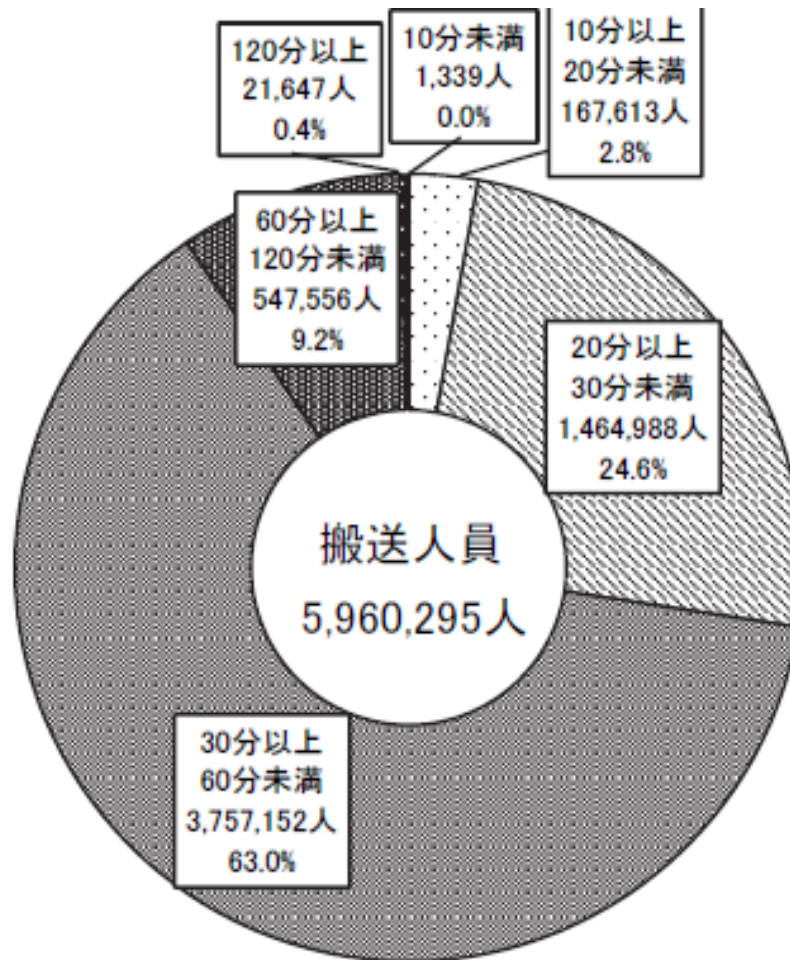


平均到着時間：8.5分

救急車到着までに10分以上かかる場合が約40%

場所別：海（12.0分）、プール（9.5分）

119番通報から病院収容所要時間

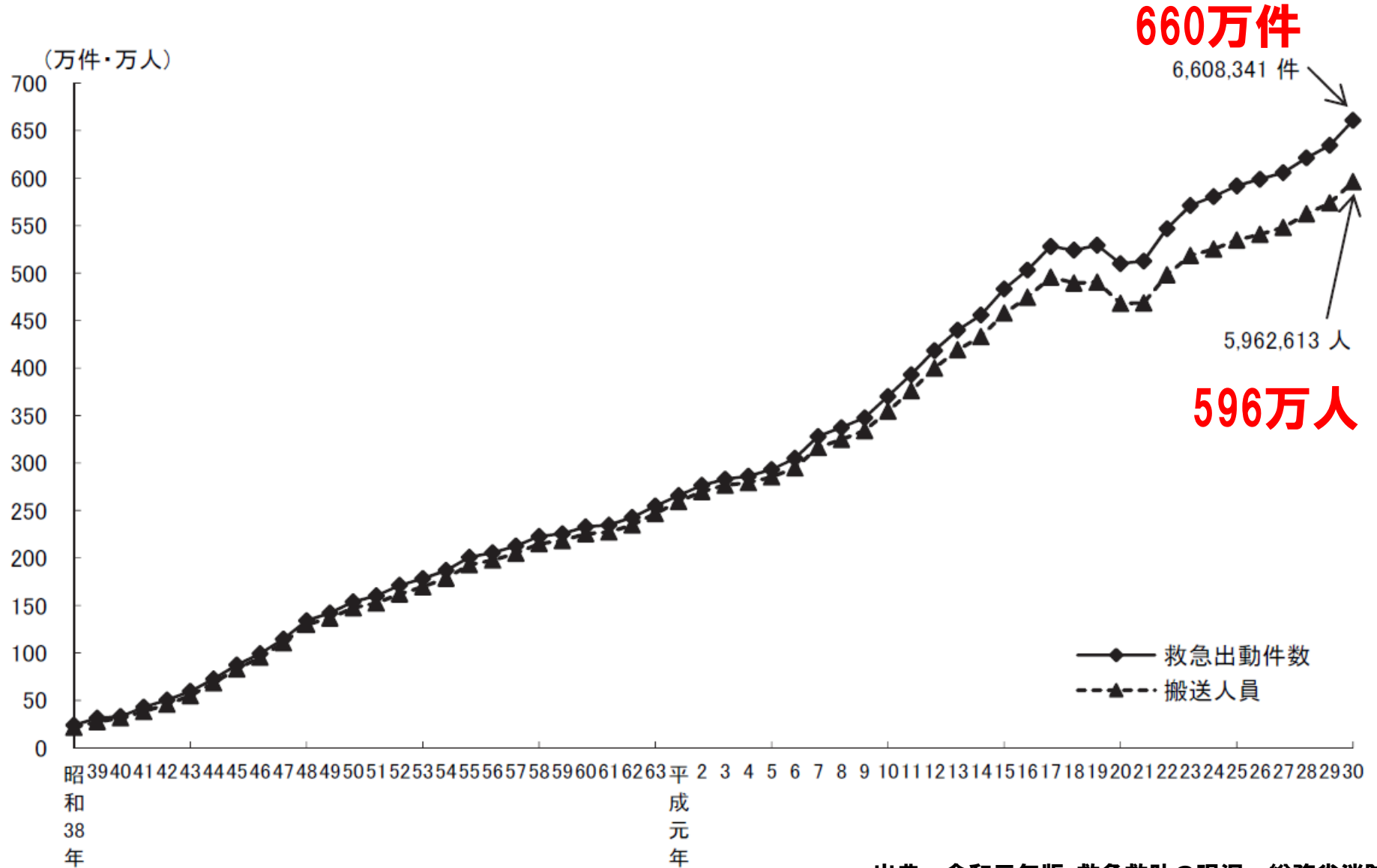


平均病院収容所要時間：**39.5分**

病院収容までに30分以上かかる場合が約**75%**

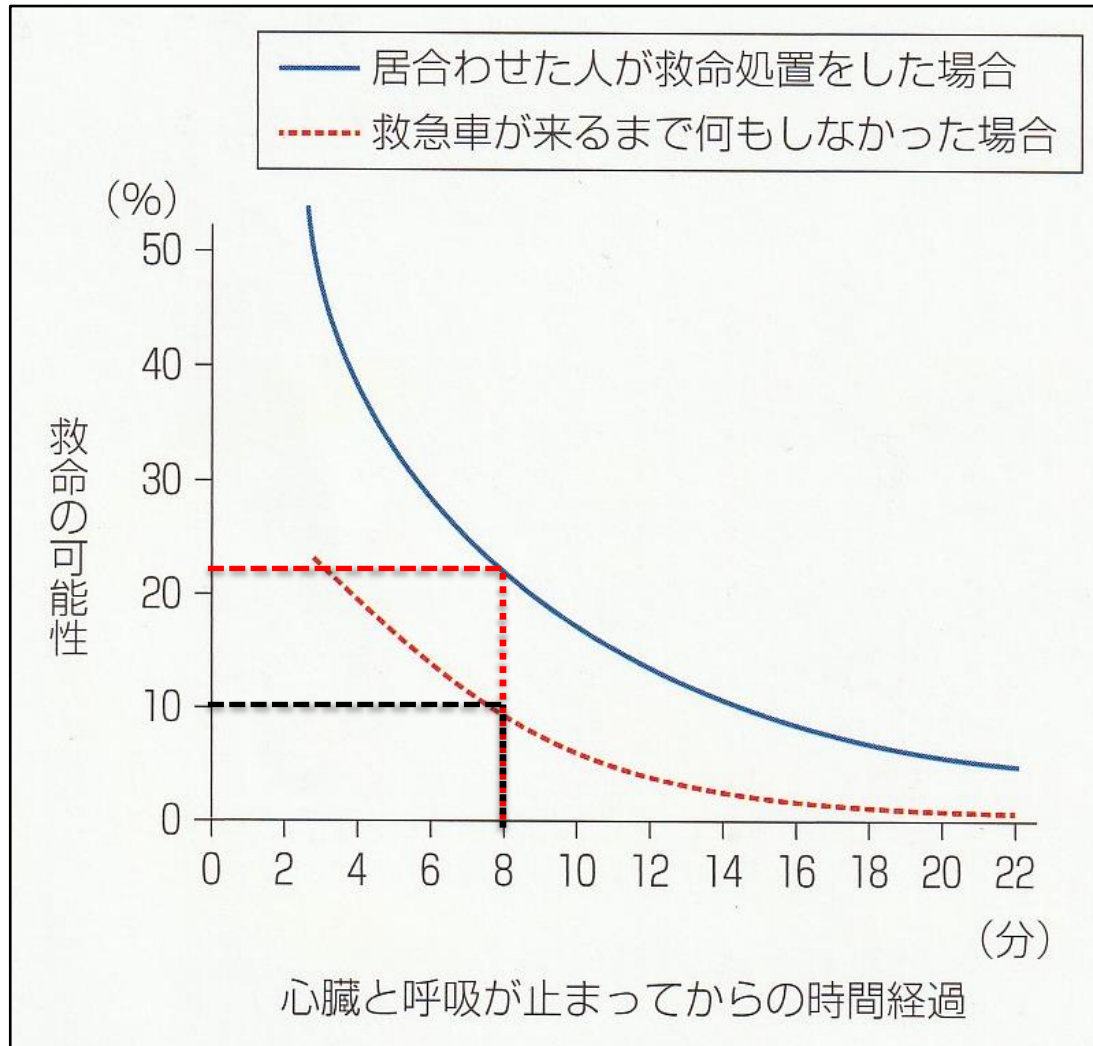
場所別：海（49.3分）、プール（40.3分）

日本の救急出動件数及び搬送人員



出典：令和元年版 救急救助の現況 総務省消防庁

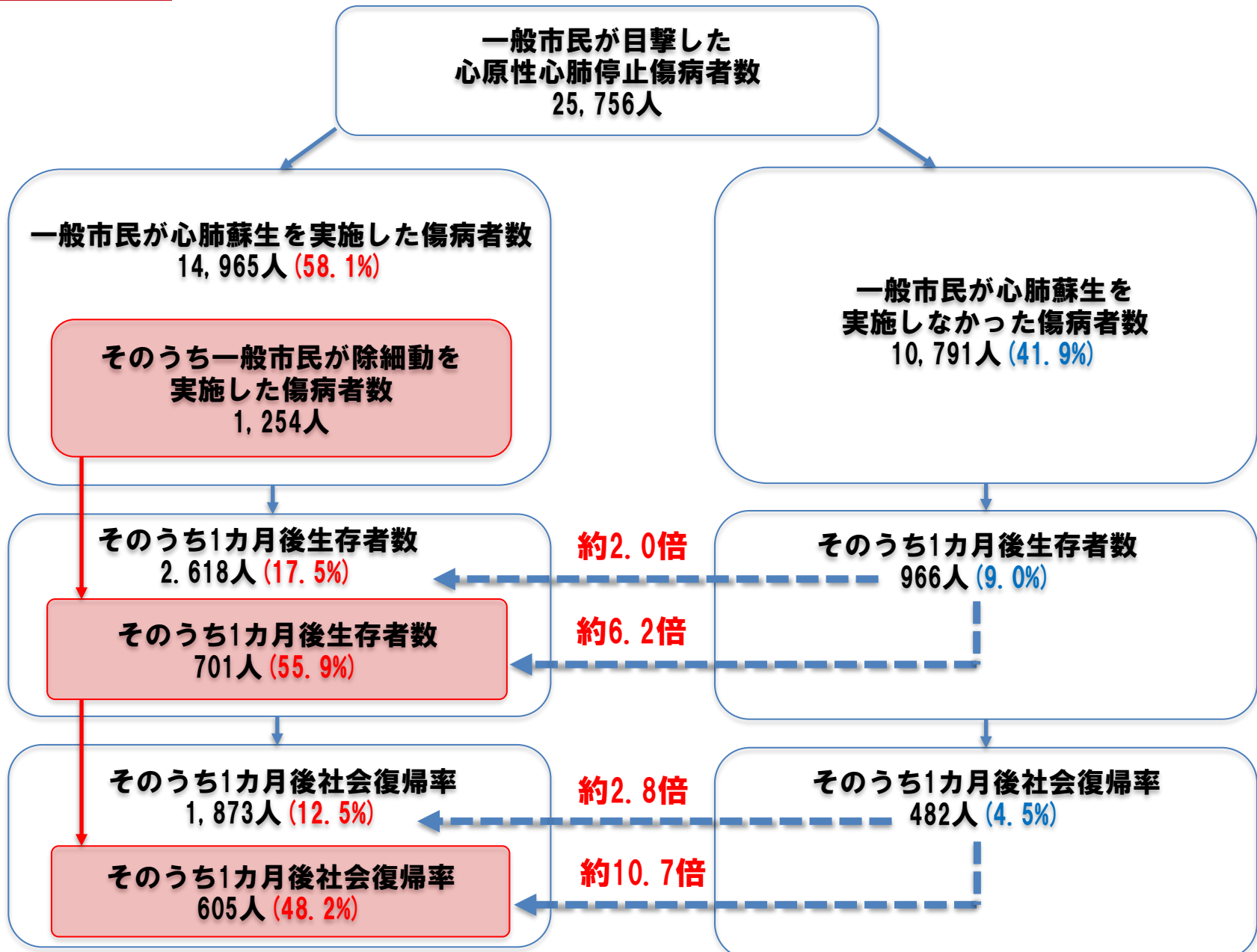
救命の可能性と時間経過



救急車が来るまで約8.5分

居合わせた人が救命処置をした場合 → 20%以上

日本の応急手当実施の現状



日本の応急手当実施の現状

(単位：人)

	救急隊が搬送した 全ての心肺機能停止 傷病者数		一般市民により 応急手当が 実施された 傷病者数		一般市民による 応急手当が 実施されなかった 傷病者数					
			うち 1ヵ月後 生存者数	うち 1ヵ月後 生存者数	うち 1ヵ月後 生存者数	うち 1ヵ月後 生存者数				
平成6年	31,206	(100)	4,172	(13.4)	185	(4.4)	27,034	(86.6)	617	(2.3)
平成7年	72,016	(100)	9,389	(13.0)	437	(4.7)	62,627	(87.0)	1,531	(2.4)
平成8年	72,542	(100)	10,954	(15.1)	446	(4.1)	61,588	(84.9)	1,488	(2.4)
平成9年	76,272	(100)	12,901	(16.9)	605	(4.7)	63,371	(83.1)	1,541	(2.4)
平成10年	80,970	(100)	15,923	(19.7)	830	(5.2)	65,047	(80.3)	1,733	(2.7)
平成11年	83,353	(100)	19,212	(23.0)	861	(4.5)	64,141	(77.0)	1,807	(2.8)
平成12年	84,899	(100)	21,121	(24.9)	881	(4.2)	63,778	(75.1)	1,964	(3.1)
平成13年	88,058	(100)	23,398	(26.6)	879	(3.8)	64,660	(73.4)	2,003	(3.1)
平成14年	91,691	(100)	25,491	(27.8)	1,065	(4.2)	66,200	(72.2)	2,160	(3.3)
平成15年	94,845	(100)	29,255	(30.8)	1,267	(4.3)	65,590	(69.2)	2,245	(3.4)
平成16年	94,920	(100)	31,815	(33.5)	1,376	(4.3)	63,105	(66.5)	2,363	(3.7)
平成17年	102,738	(100)	34,539	(33.6)	1,553	(4.5)	68,199	(66.4)	2,816	(4.1)
平成18年	105,942	(100)	37,381	(35.3)	1,912	(5.1)	68,561	(64.7)	3,029	(4.4)
平成19年	109,461	(100)	42,892	(39.2)	2,393	(5.6)	66,569	(60.8)	3,254	(4.9)
平成20年	113,827	(100)	46,306	(40.7)	2,770	(6.0)	67,521	(59.3)	3,264	(4.8)
平成21年	115,250	(100)	49,249	(42.7)	3,101	(6.3)	66,001	(57.3)	3,393	(5.1)
平成22年	123,095	(100)	52,541	(42.7)	3,414	(6.5)	70,554	(57.3)	3,813	(5.4)
平成23年	127,109	(100)	54,652	(43.0)	3,390	(6.2)	72,457	(57.0)	3,695	(5.1)
平成24年	127,866	(100)	56,692	(44.3)	3,635	(6.4)	71,174	(55.7)	3,801	(5.3)
平成25年	123,987	(100)	55,695	(44.9)	3,732	(6.7)	68,292	(55.1)	3,803	(5.6)
平成26年	125,951	(100)	59,445	(47.2)	4,042	(6.8)	66,506	(52.8)	3,674	(5.5)
平成27年	123,421	(100)	59,420	(48.1)	4,155	(7.0)	64,001	(51.9)	3,647	(5.7)
平成28年	123,554	(100)	60,363	(48.9)	4,489	(7.4)	63,191	(51.1)	3,773	(6.0)
平成29年	127,018	(100)	63,439	(49.9)	4,633	(7.3)	63,579	(50.1)	3,716	(5.8)
平成30年	127,718	(100)	64,745	(50.7)	5,007	(7.7)	62,973	(49.3)	3,697	(5.9)
合計	2,547,709	(100)	940,990	(36.9)	57,058	(6.1)	1,606,719	(63.1)	68,827	(4.3)

一般市民のよる応急手当実施率：13.4% (H6) → **50.7% (H30)**

出典：令和元年版 救急救助の現況 総務省消防庁より作成

日本の応急手当実施の現状

区分	年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
一般市民が心原性心肺機能停止を目撃した傷病者		21,112	22,463	23,296	23,797	25,469	25,255	24,496	25,569	25,538	25,756
うち、一般市民により除細動が実施された傷病者		583	667	738	881	907	1,030	1,103	1,204	1,260	1,254
1ヵ月後、生存		258	301	333	365	455	519	596	642	674	701
生存率		44.3%	45.1%	45.1%	41.4%	50.2%	50.4%	54.0%	53.3%	53.5%	55.9%
OPC/CPC共に1又は2		209	255	287	317	388	446	508	547	576	605
社会復帰率		35.8%	38.2%	38.9%	36.0%	42.8%	43.3%	46.1%	45.4%	45.7%	48.2%
うち、一般市民による除細動が実施されなかった(適応でなかった)傷病者		20,529	21,796	22,558	22,916	24,562	24,225	23,393	24,365	24,278	24,502
1ヵ月後、生存		2,159	2,260	2,322	2,371	2,580	2,563	2,590	2,758	2,770	2,883
生存率		10.5%	10.4%	10.3%	10.3%	10.5%	10.6%	11.1%	11.3%	11.4%	11.8%
OPC/CPC共に1又は2		1,286	1,288	1,390	1,393	1,587	1,526	1,595	1,679	1,656	1,750
社会復帰率		6.3%	5.9%	6.2%	6.1%	6.5%	6.3%	6.8%	6.9%	6.8%	7.1%
うち、一般市民による除細動の適応有無が不明の傷病者		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

**一般市民が心原性心肺機能停止を目撃した傷病者に対して
除細動を実施した傷病者の1ヵ月後の生存率**

44.3% (H21) → 55.9% (H30)

JLAパトロールログデータ

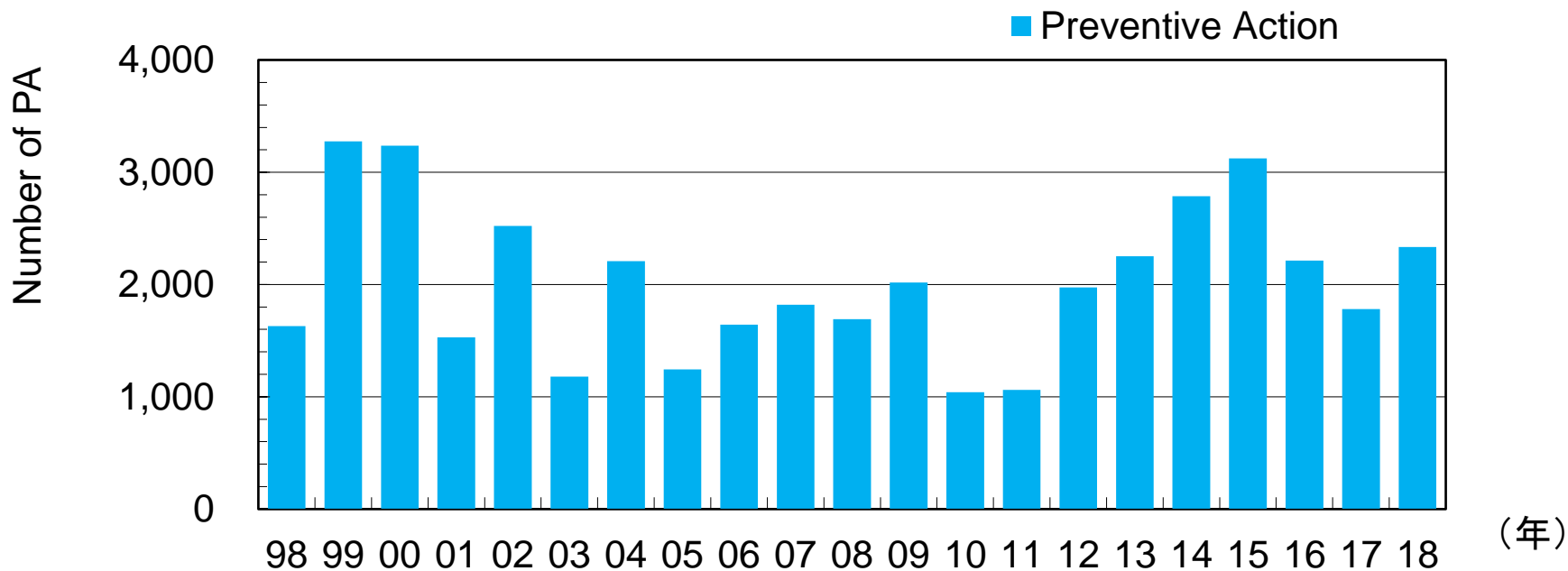
日本の溺水事故の現状の整理

【2012年からの溺水区分定義】

新区分	従来の溺者区分	遊泳者・要救助者の状況	ライフセーバー(救助者)の一般的な行動	
Preventive Action	安全移送者	足がつくところで遊泳	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけ ・救助機材につかまらせて休息させる ・救助機材で足の届くところまで移送 	
		↓		足がつかない場所へ移動
		↓		陸に戻ろうとしても戻れない 疲労、パニック
Emergency Care	重溺者	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・救助機材で陸まで搬送 	
		浮いていることが難しくなる (アプローチ時に意識あり)		
		↓		
		アプローチ時に意識なし		

遊泳者の事故防止及び重溺者に移行させないためにはこの段階での対応が重要

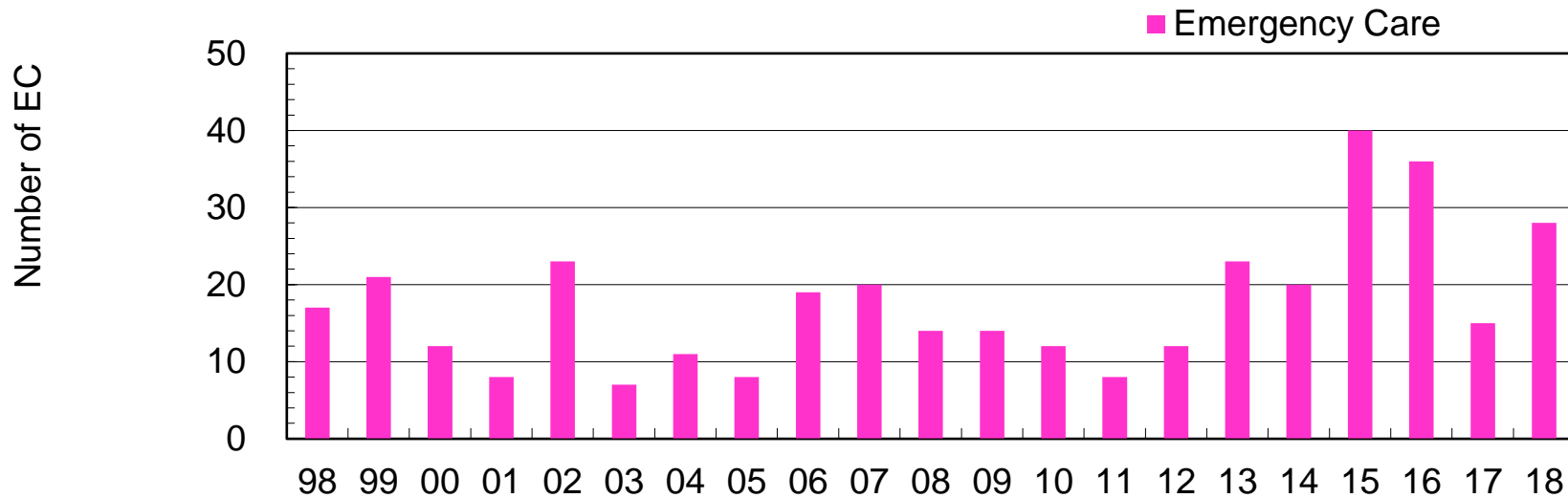
日本の溺水事故の現状の整理(JLAデータ)



Preventive Action (救助時意識あり)の人数



日本の溺水事故の現状の整理(JLAデータ)



(年)

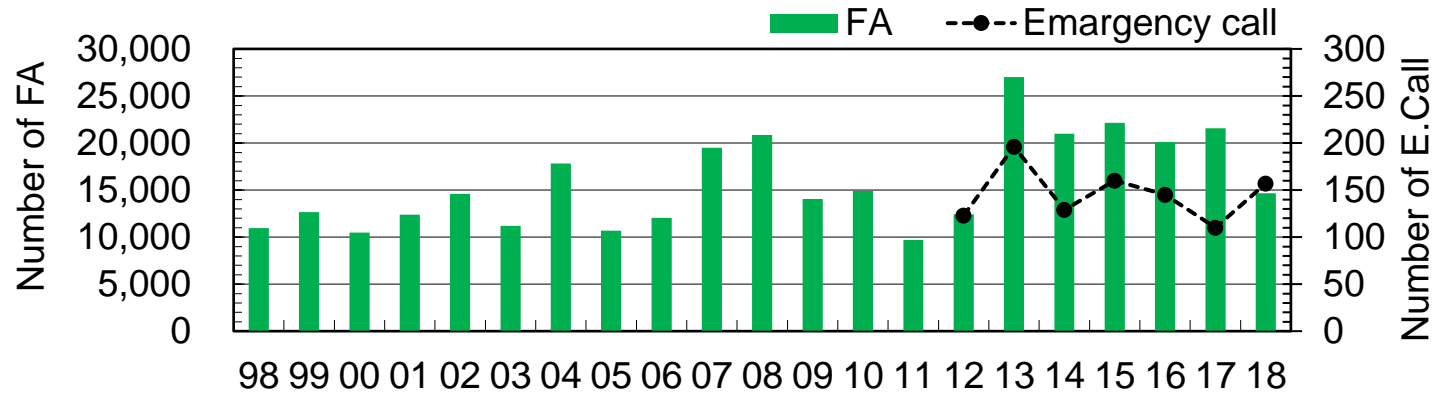
Emergency Care (救助時意識無し) の人数



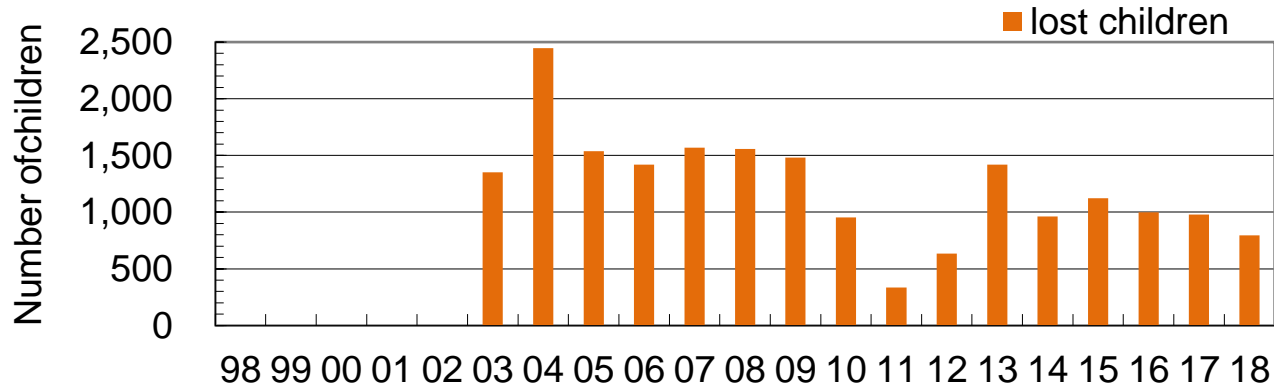
【ECとPAの数をどのようにとらえるか？】

- LS活動は、事故を未然に防ぐことが第一
- PA数は、重大事故(EC)を未然に防いだ数
- 公的統計には表れない数であり、LS活動の必要性を強く示す数。
- 一方、遊泳客をそのような状況(意識ありの溺者)に至らしめてしまった数とも言える。
- より謙虚に考えるとEC数を減らすと共にPA数も減らしていくべき数字。

日本の溺水事故の現状の整理(JLAデータ)

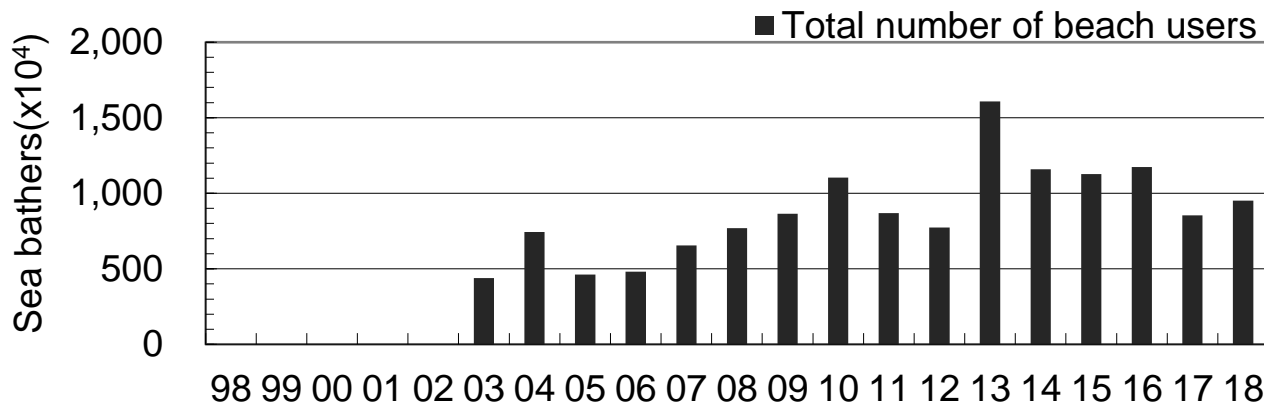


First Aidと救急車要請数

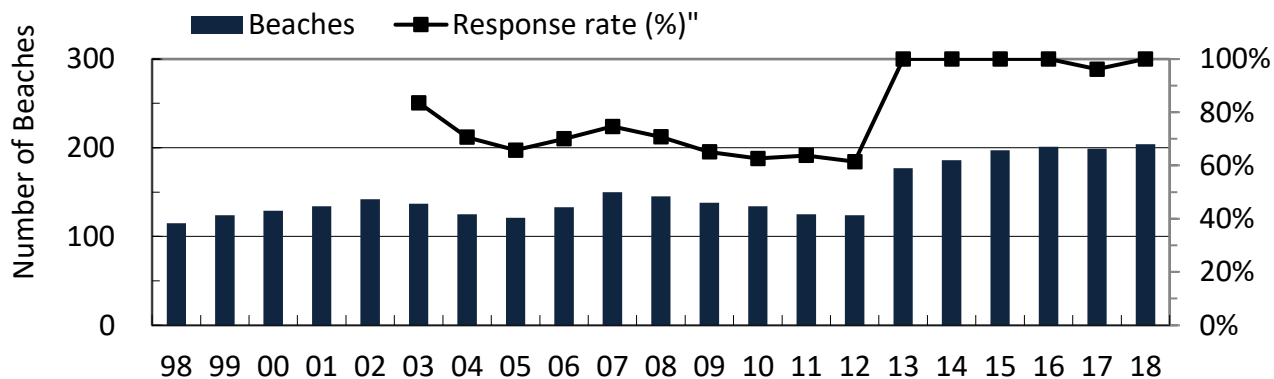


迷子

日本の溺水事故の現状の整理(JLAデータ)



海水浴場入込数



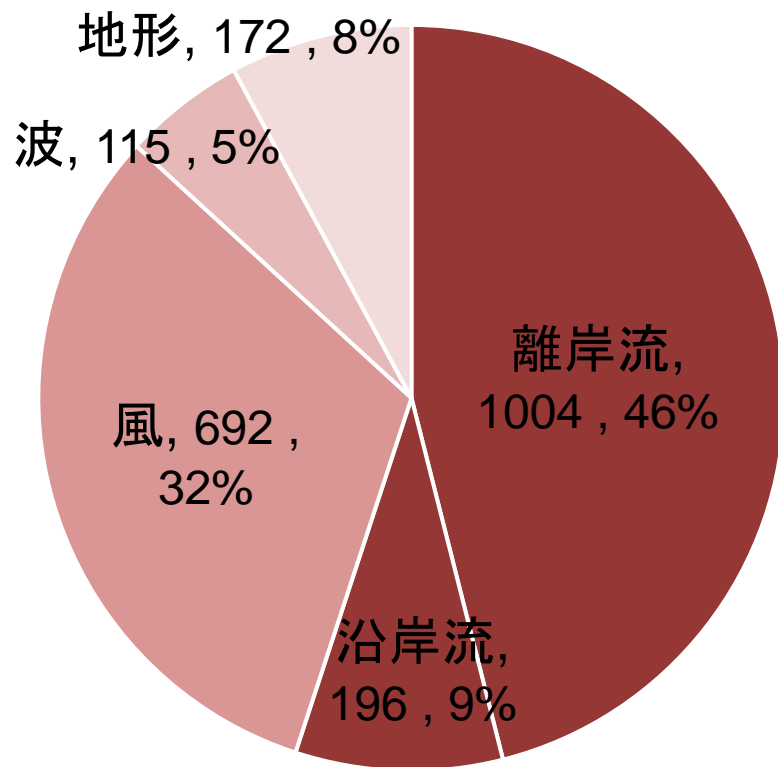
JLA関与海水浴場数とログ提出率

日本の溺水事故の現状の整理(JLAデータ)

レスキュー(PA+EC)の要因分析

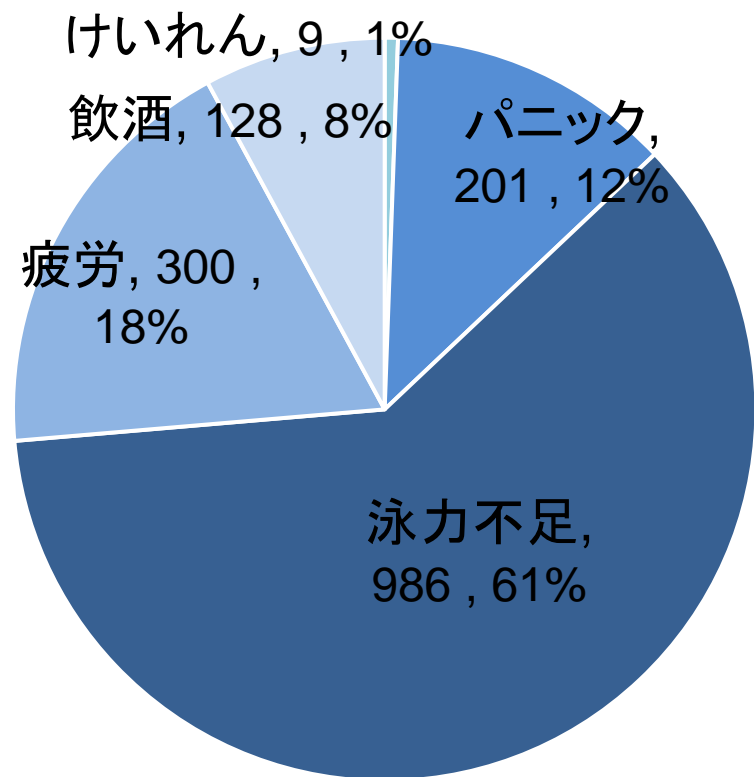
自然的要因

(2013~2018年の年平均)



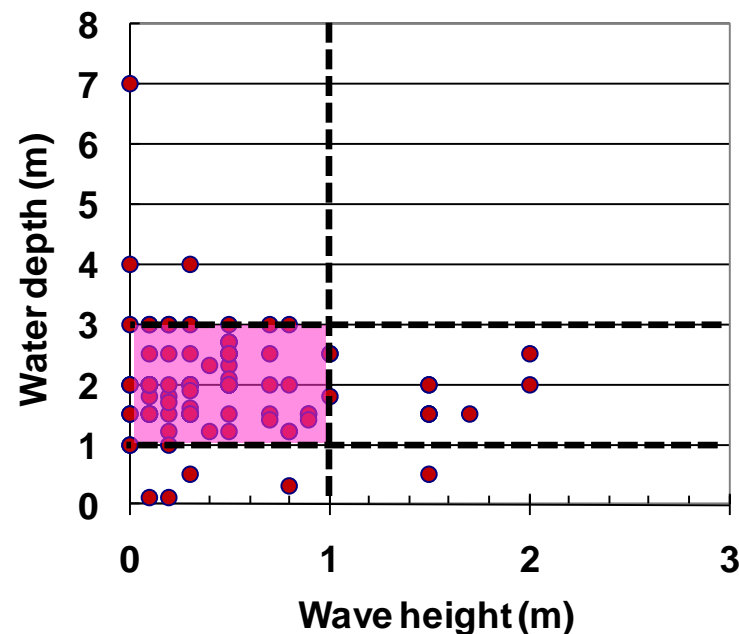
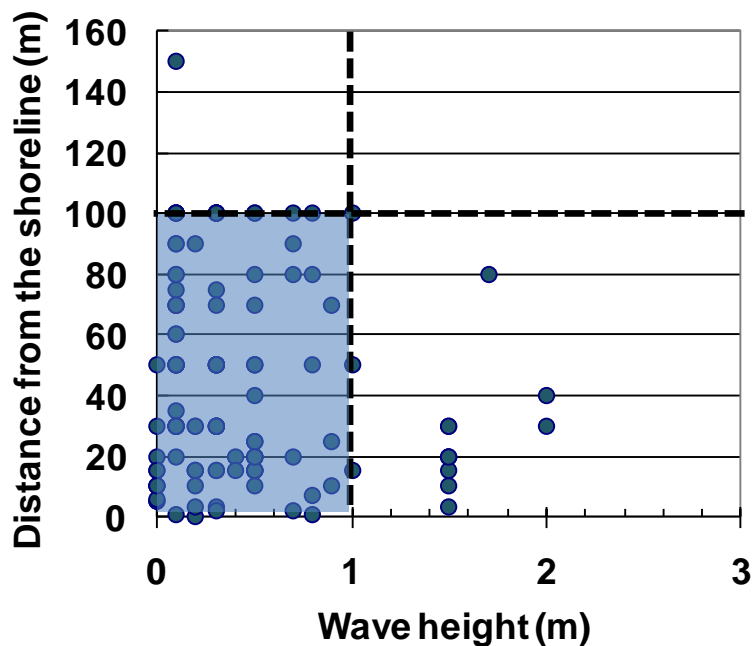
人的要因

(2013~2018年の年平均)



溺水時における海象状況

- 波高1m以下の時で大半が発生している
- 水深1-3mの浅い海域で発生している
- 砕波帯(0-100m)で多く発生している

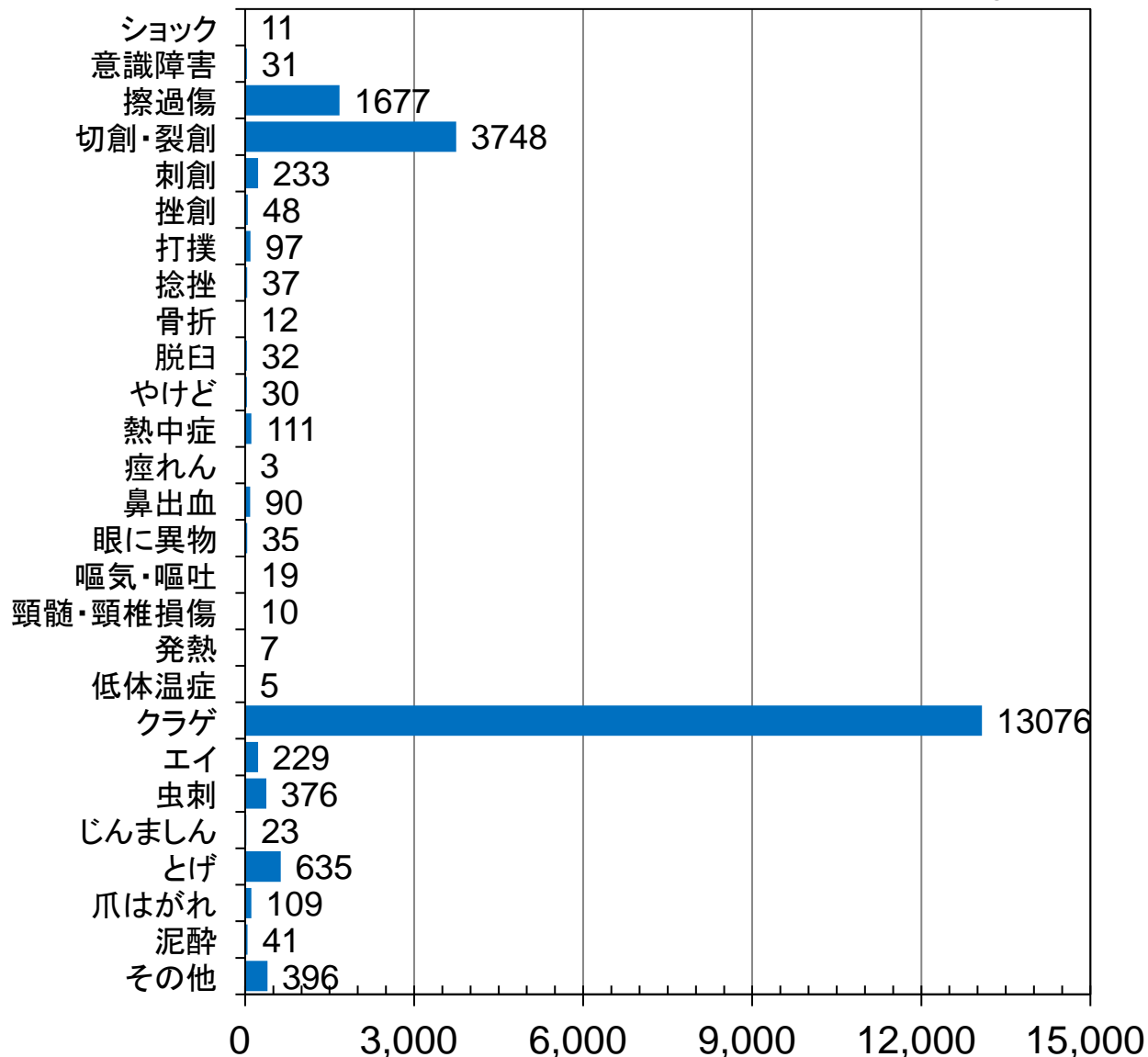


溺水事故における波高と汀線からの距離との関係

溺水事故における波高と水深との関係

日本の溺水事故の現状の整理(JLAデータ)

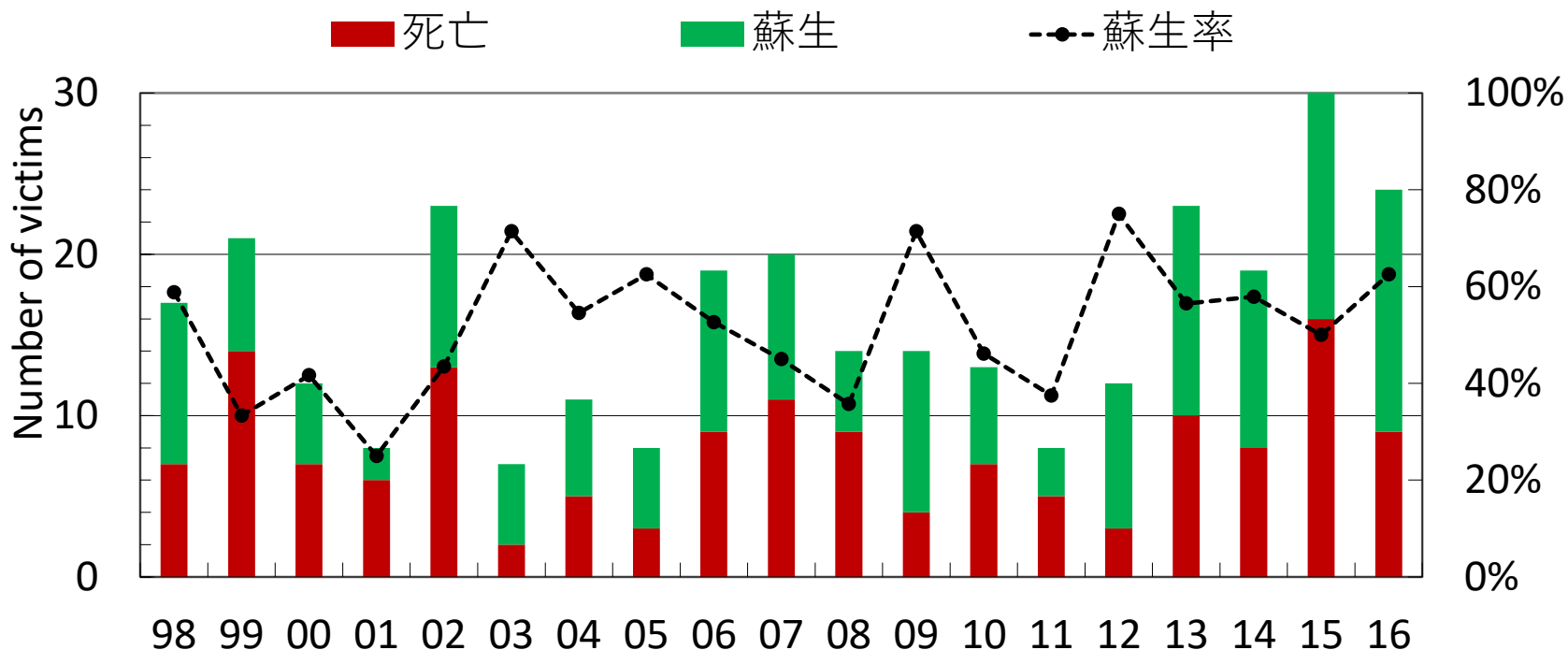
2014-2016(Average /yr)



傷病別のFirst Aid数(2014~2016年の年平均)

日本の溺水事故の現状の整理(JLAデータ)

JLAライフセーバーが海水浴場で心肺蘇生法を実施した際の蘇生率



一般市民によるBLS実施傷病者数14,965. その傷病者の1ヶ月後の生存率は約17.5%.
 (総務省消防庁, 令和元年版 救急・救助の現状)

JLAのライフセーバーのBLSは非常に質が高い

日本の溺水事故の現状の整理(JLAデータ)

海水浴場における溺水に対するBLSの実態(2012～2016年)

	2014	2015	2016
CPRの実施	13	24	17
遊泳区域外でのCPR	3	6	1
ライフセーバーによる目撃	2	8	5
AEDの適用	10 (77%)	21 (88%)	16 (94%)
除細動	2	1	2
飲酒	3	3	3
浜辺での心拍再開	5 (38%)	8 (33%)	9 (53%)
社会復帰	3 (23%)	5 (20%)	7 (41%)

Data: JLA溺水防止救助救命本部溺水事故調査委員会

一般市民によるBLS実施傷病者数14,965. その傷病者の1ヶ月後の生存率は約**17.5%**.

(総務省消防庁, 令和元年版 救急・救助の現状)

日本の溺水事故の現状の整理(JLAデータ)

海水浴場における溺水に対するBLS効果

(2009～2014年, 86CPR症例のうちデータ分析が可能な44CPR症例に対する調査結果)

	溺水CPA症例 (n=44)		目撃あり (n=22)		目撃なし (n=22)	
溺者の特徴等						
平均年齢	36.2		32.9		39.4	
男性(割合)	40	(91%)	20	(91%)	20	(91%)
ライフセーバーによるCPR	44	(100%)	22	(100%)	22	(100%)
処置の有無						
人工呼吸	44	(100%)	22	(100%)	22	(100%)
AEDの適用	41	(93%)	20	(91%)	21	(96%)
除細動	4	(9%)	3	(14%)	1	(5%)
結果						
心拍再開	15	(34%)	15	(68%)	0	(0%)
1ヶ月後生存率	13	(30%)	13	(59%)	0	(0%)
社会復帰率 (CPC1-2)	13	(30%)	13	(59%)	0	(0%)
救命に関する時間						
CPRを開始するまでの平均時間(分)	6.7		4.2		9.3	
現場における心拍再開までの時間(分)	8.1		8.1			

出典:T. Komine, H. Tanaka, H. Takyu, T. Kinoshi, S. Gotoh, E. Sone, R. Sagisaka, T. Ishikawa, S. Shimazaki; Effectiveness of surf lifesaver on OHCA occurred by drowning on the beaches in Japan. 8th Asian Conference for Emergency Medicine.

JLAアカデミーデータ

日本におけるLSの現状

- ライフセービング→「人命救助」又は「救命」
- ライフセービングは「一次救命を本旨とした社会活動であり、**水辺の事故防止のための実践活動**」を指す
- 「溺れた者を救う」**救助活動**だけでなく、「溺れない安心な環境をマネジメントする」**未然防止活動**



日本におけるLSの現状

■ライフセーバーとは？

- ・ 広義：ライフセービング活動に携わる人
- ・ 狭義：ライフセーバーの資格を取得した人
(継続して活動している人！)



JLAではBASICサーフライフセーバー又はプールライフガード以上の資格保有者を**認定ライフセーバー**と称している。

■ライフガードとは？

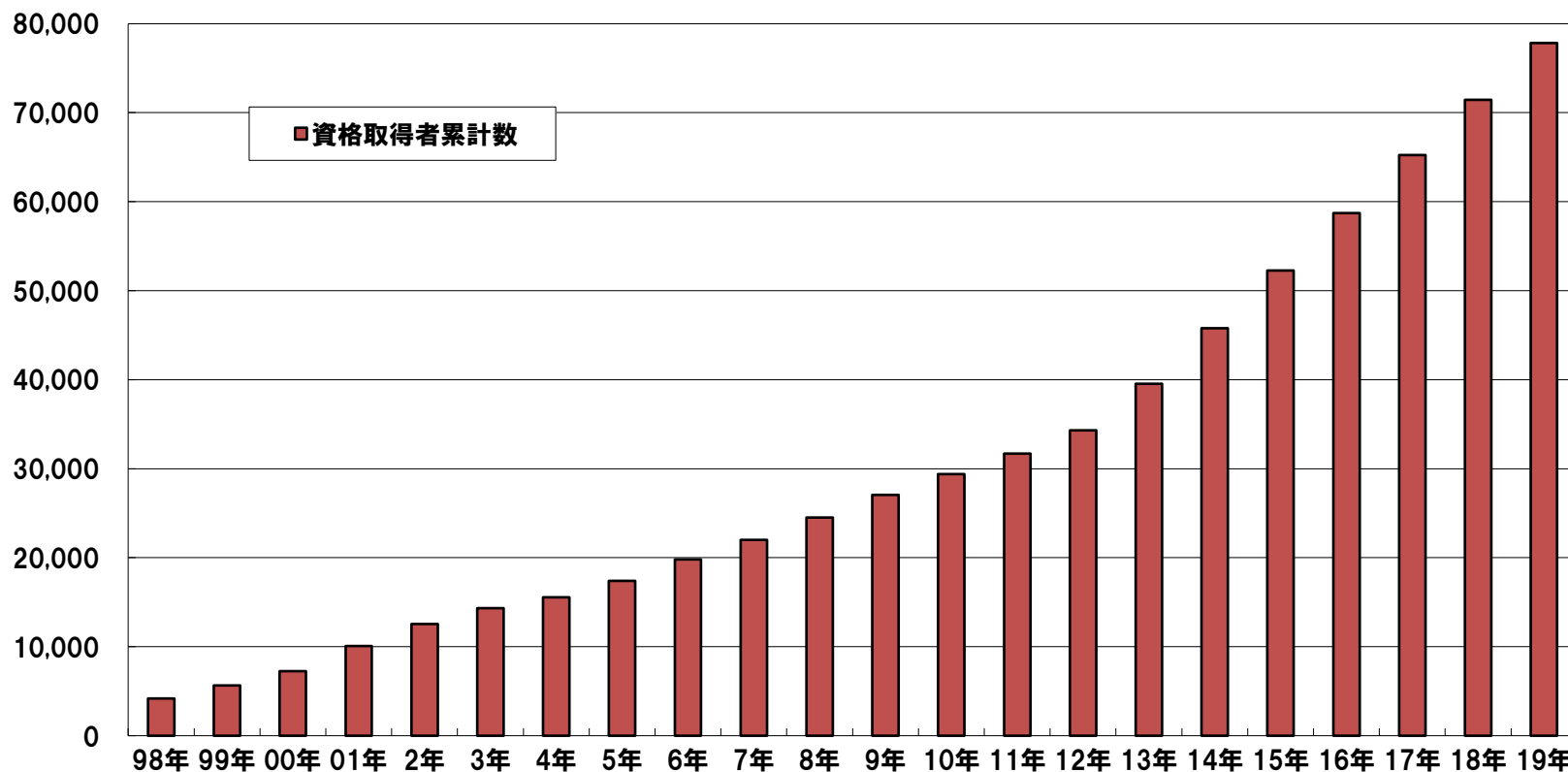
LS活動で生活の糧を得ている人

→プロフェッショナル

日本では、まだ確立されていない。

JLA資格累計取得者数(2020年3月末)

累計取得者数(人)



資格取得者:77,837人 (BLS・WS含む)←4,186人 (1998年)

アカデミー開始(2012年)以降の各資格・講習会数

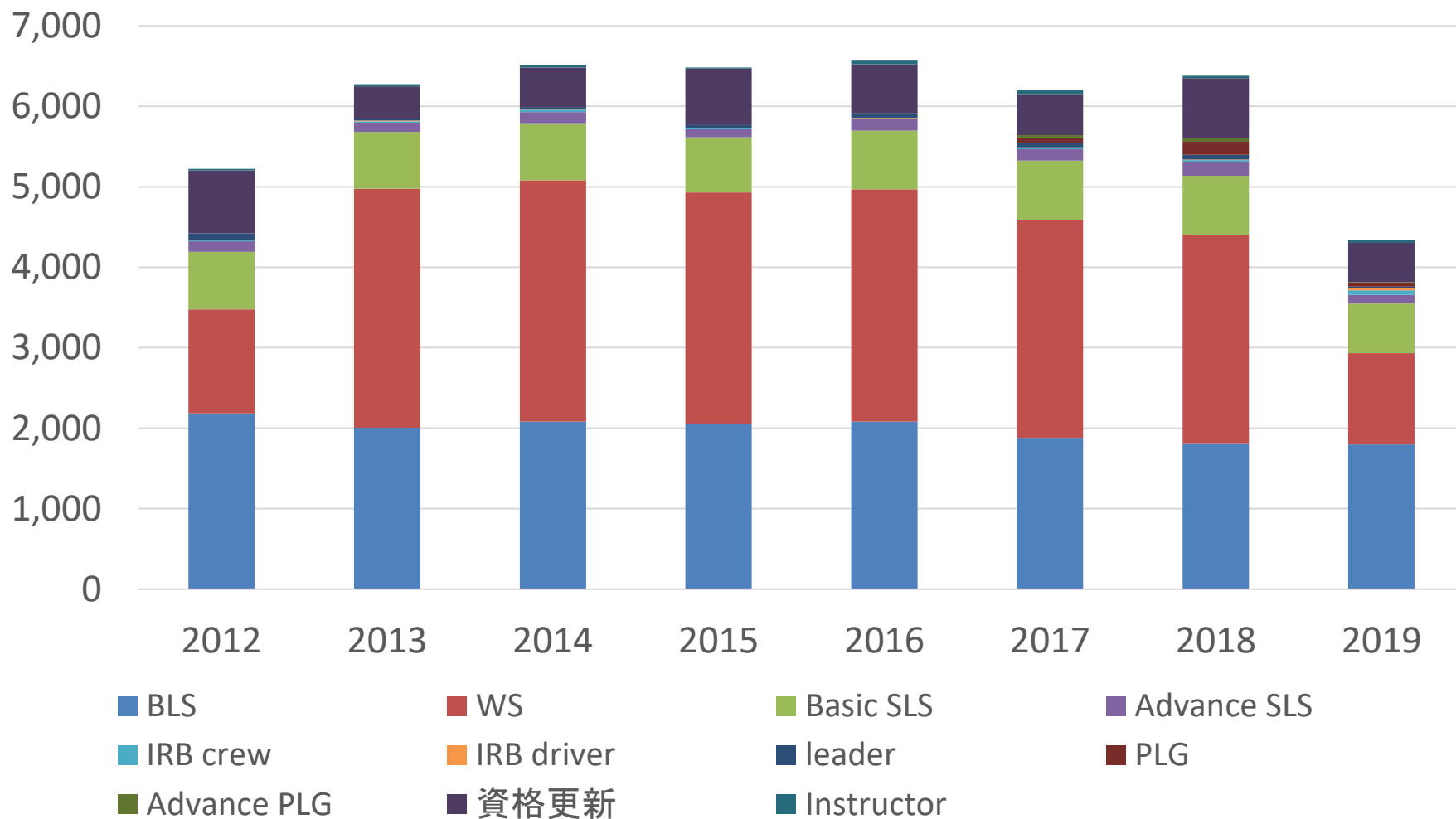
資格名	2012年度 (ACADEMY開始)		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		合計		平均	
	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数
BLS	2,183	136	2,005	124	2,083	130	2,051	138	2,081	152	1,880	129	1,805	133	1,798	128	15,886	942	2,269.4	134.6
Water safety	1,293	53	2,971	95	2,997	92	2,878	97	2,890	99	2,710	93	2,602	91	1,134	75	19,475	620	2,782.1	88.6
Basic surf lifesaver	717	48	705	51	709	47	685	50	727	48	734	50	729	51	616	53	5,622	345	803.1	49.3
Advance surf lifesaver	129	15	116	16	141	16	100	13	146	16	143	17	171	18	110	13	1,056	111	150.9	15.9
IRB crew	12	2	17	3	26	4	17	3	7	1	15	2	25	4	55	5	174	19	24.9	2.7
IRB driver	0	0	8	3	2	1	3	2	5	1	7	1	7	2	23	4	55	10	7.9	1.4
leader	87	9	23	5	32	4	32	5	63	6	52	6	60	4	23	1	372	39	53.1	5.6
Pool Lifeguard											72	8	161	16	46	8	279	24	139.5	12.0
Advance Pool Lifeguard											29	4	45	7	10	2	84	11	42.0	5.5
資格更新	783	89	402	60	492	77	702	85	604	79	512	72	746	85	490	72	4,731	547	675.9	78.1
Instructor (新規)	18	3	29	2	26	3	13	1	54	3	56	4	29	6	37	4	262	22	37.4	3.1
Instructor (継続)	170		168				223				277		316	12			358			
合計 ※Instructorは除く	5,222	355	6,276	359	6,508	374	6,481	394	6,577	405	6,210	386	6,380	417	4,342	365	47,996	2,690	6,986	397

平均(8年)年間資格発行数:6,986

平均(8年)年間講習会数:397回

インストラクター数:358人

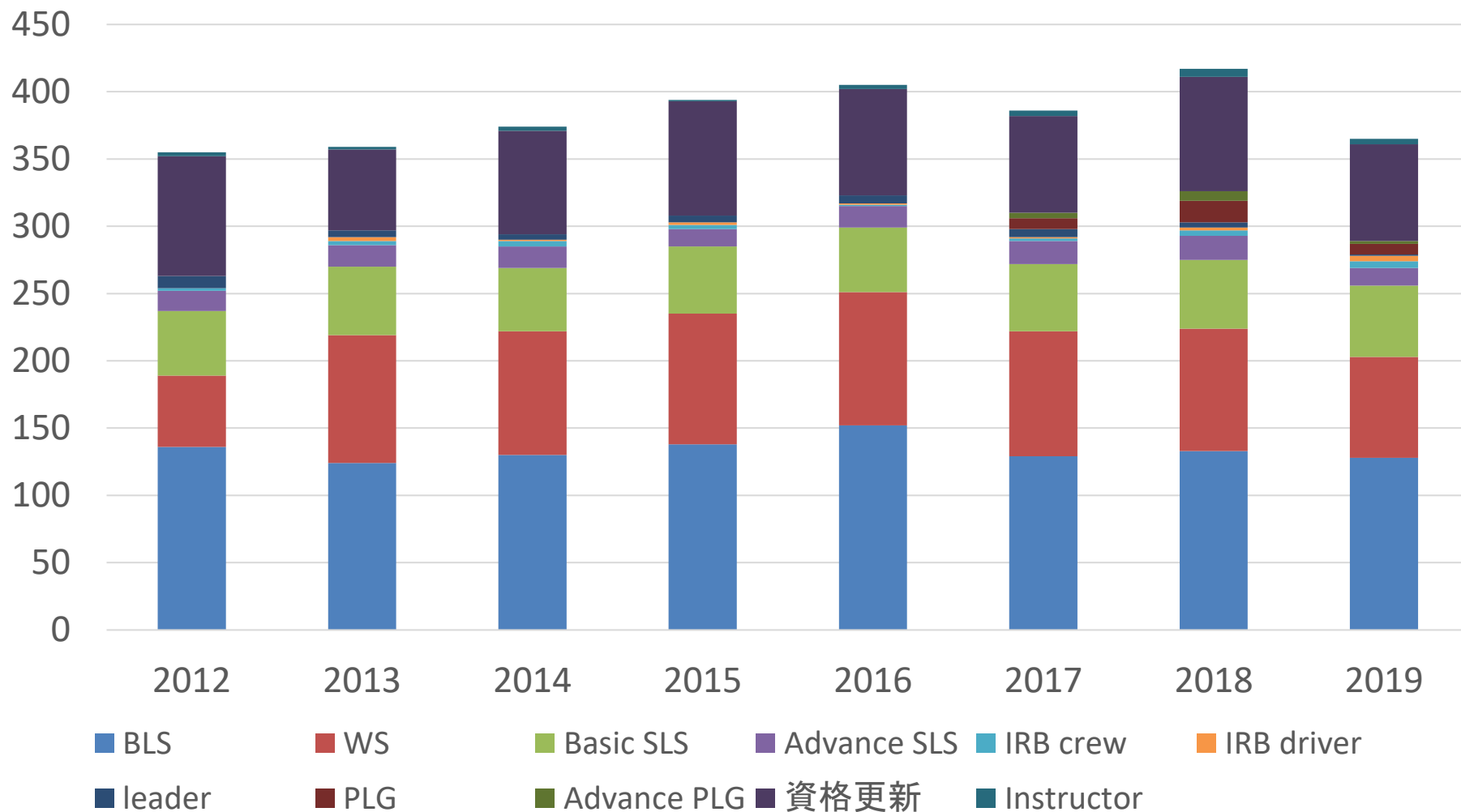
アカデミー開始(2012年)以降の各資格発行数



2020年

- WSの半減 → 東京都臨海学校がサポーター講習会になった
- 3月に講習会開催できず

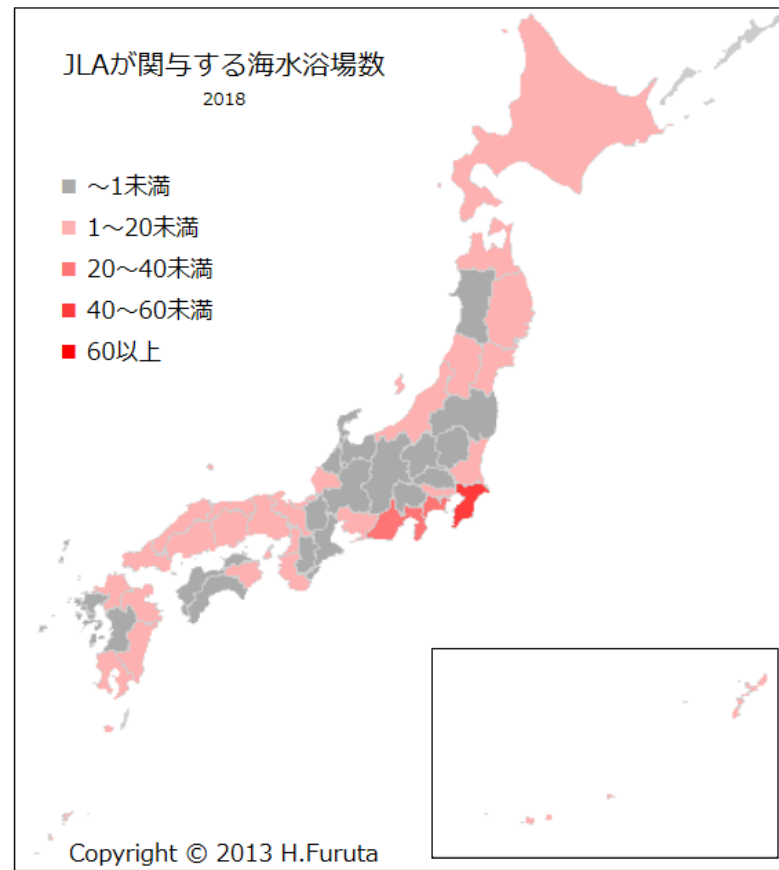
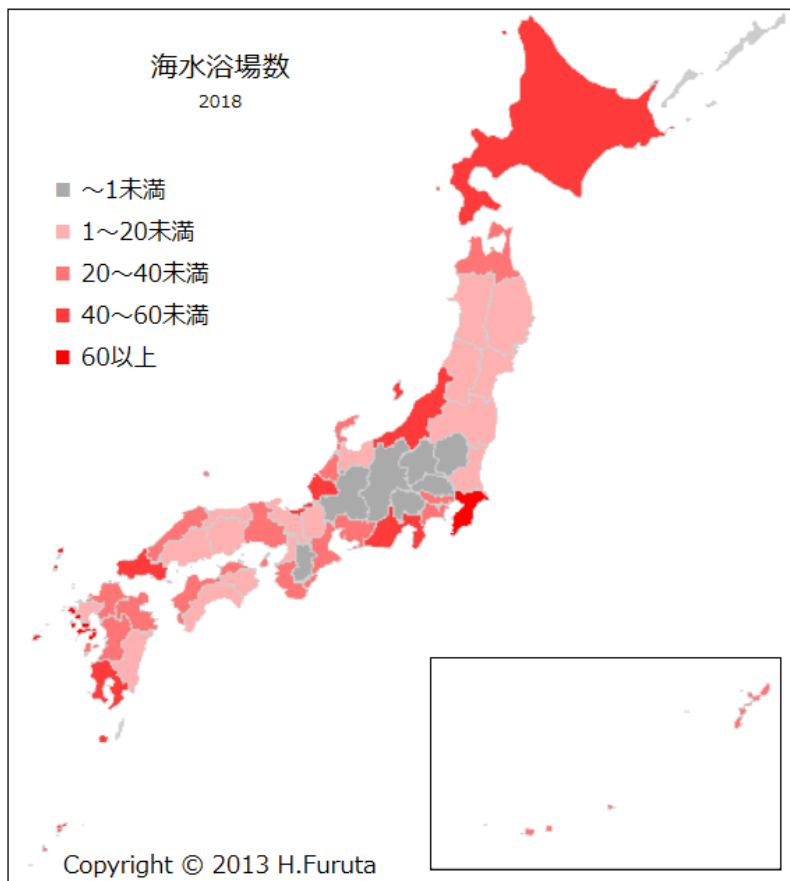
アカデミー開始(2012年)以降の各講習会開催数



2020年3月は講習会が開催できず

日本におけるLSの現状

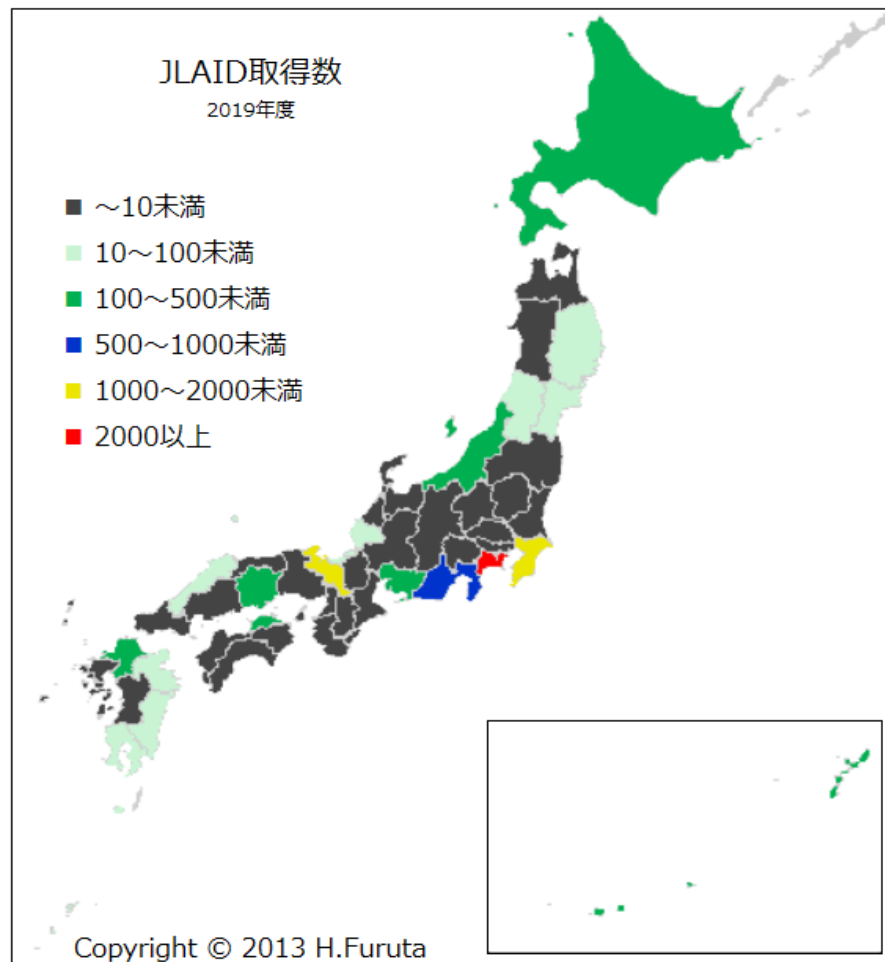
海水浴場数 (2019) 及びJLAが関与する海水浴場 (2018) 分布図



- 海水浴場上位： 長崎:62、千葉:60、福井・静岡:56、鹿児島:55、新潟:54
- JLAが関与海水浴場上位：千葉:56、静岡:34、神奈川:20、東京:14、新潟:12、茨城:10
- 海水浴場 : 1,054か所 (数字でみる観光2019: 日本観光振興協会)
- JLAが関与 : 196か所 (2018) → **18.6%**

日本におけるLSの現状

JLA-ID取得者分布：総数9,746人



神奈川:3,729,
愛知:379,

千葉:1,802,
福岡:335,

京都:1,166,
新潟:235,

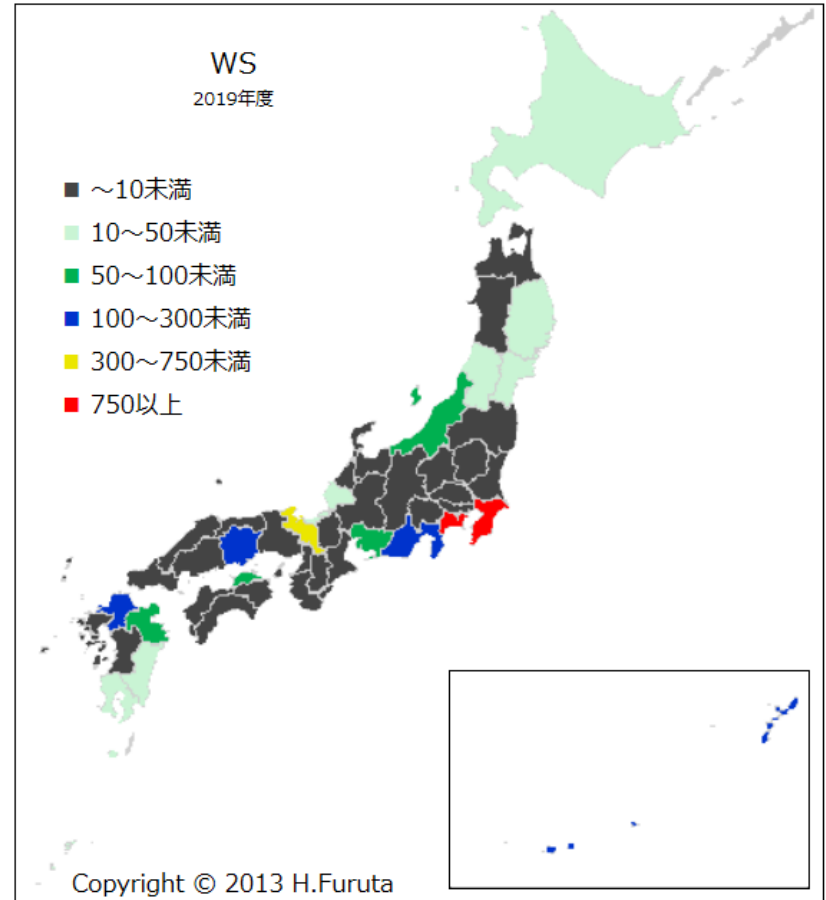
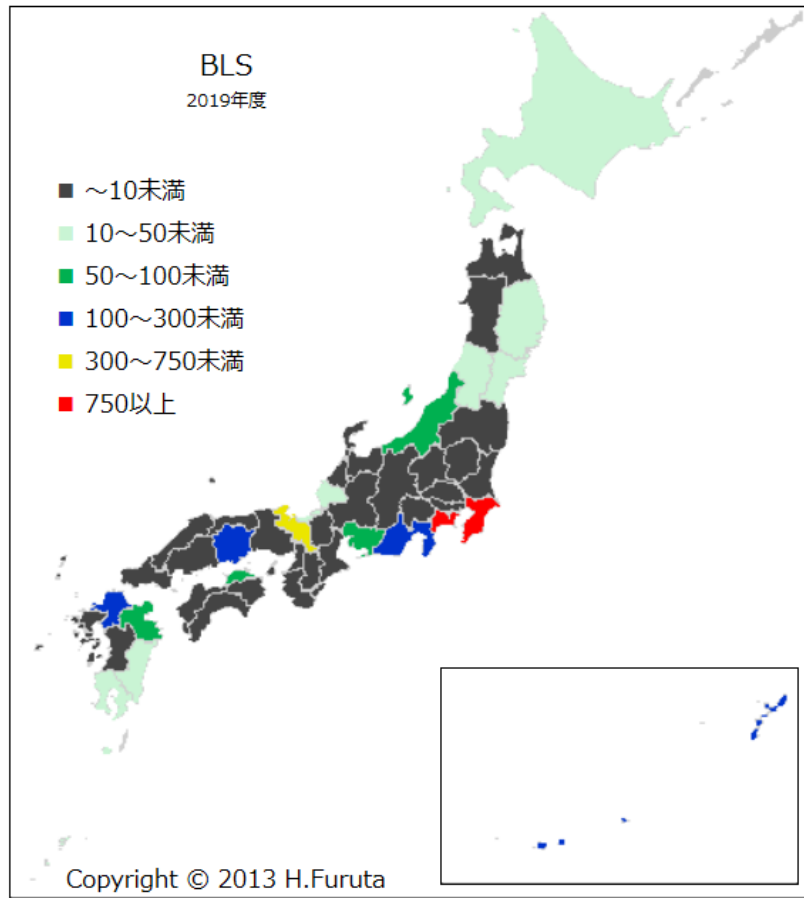
静岡:798,
沖縄:185,

岡山:392
香川:122

日本におけるLSの現状

BLS分布：3,777人

WS分布：3,653人

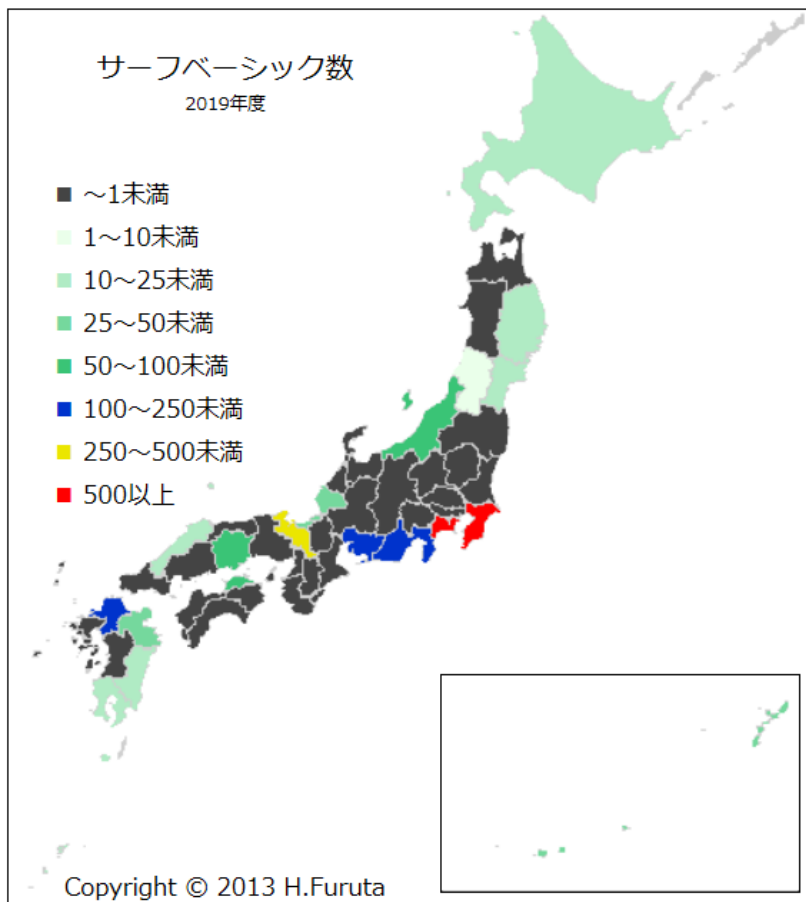


神奈川:1,376 千葉:823 京都:448 静岡:224
岡山:140 福岡:122 沖縄:140 新潟:94

神奈川:1,195 千葉:732 京都:556 静岡:233
沖縄:153 岡山:151 福岡:128 新潟/愛知:98

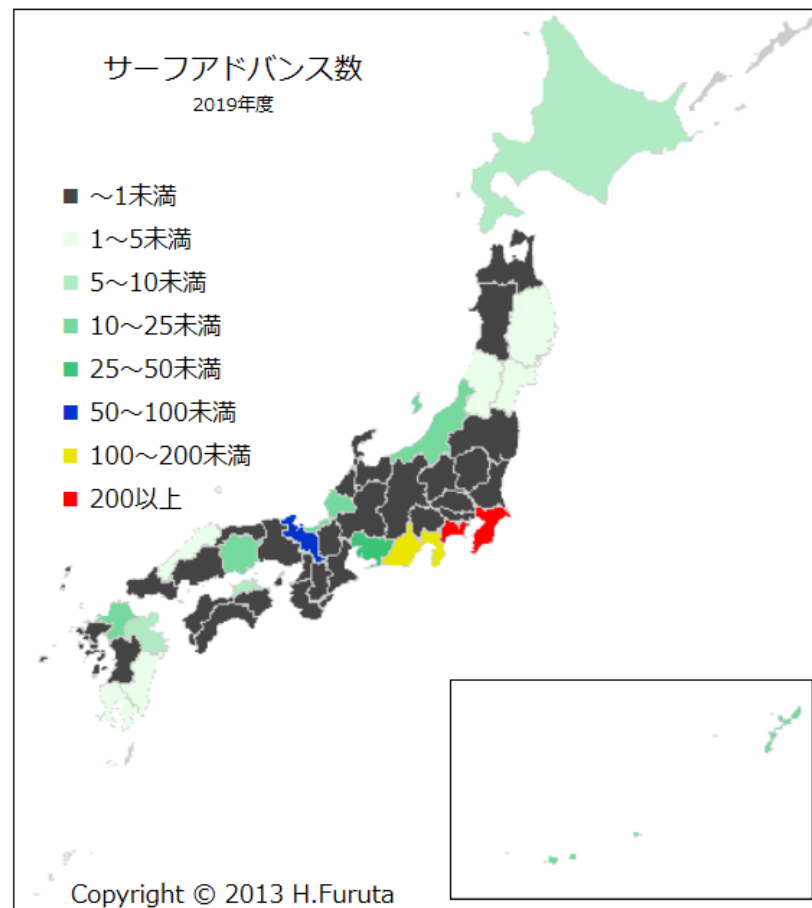
日本におけるLSの現状

サーフBASIC分布：2,855人



神奈川:1,002 千葉:653 京都:287 静岡:225
 福岡:126 愛知:101 岡山:99 新潟:85

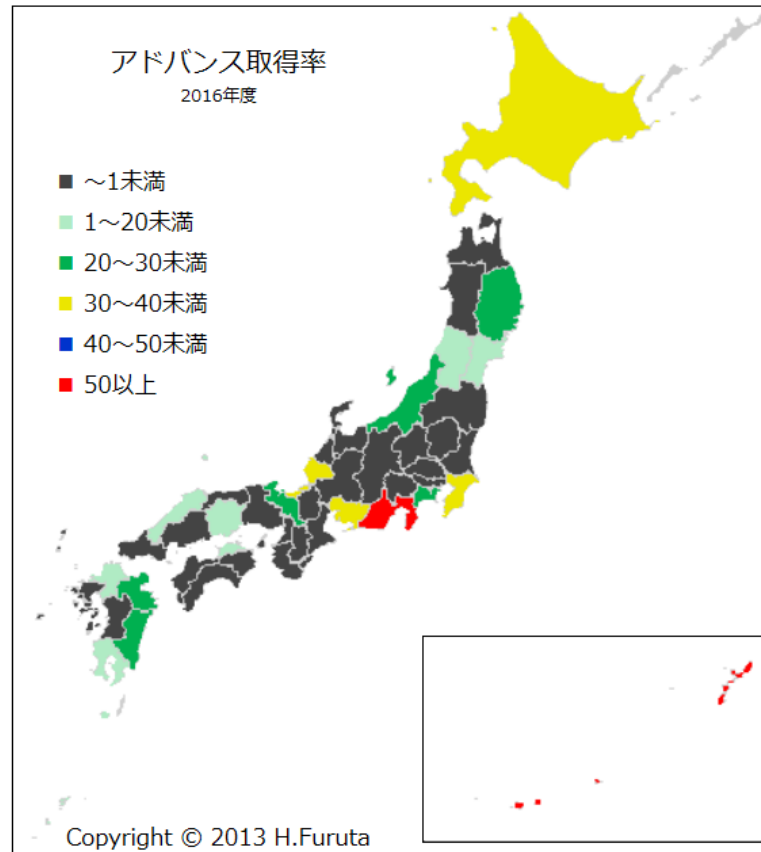
サーフADVANCE分布：855人



神奈川:257 千葉:222 静岡:141 京都:76
 沖縄:23 愛知:38 新潟:19 岡山:17

日本におけるLSの現状

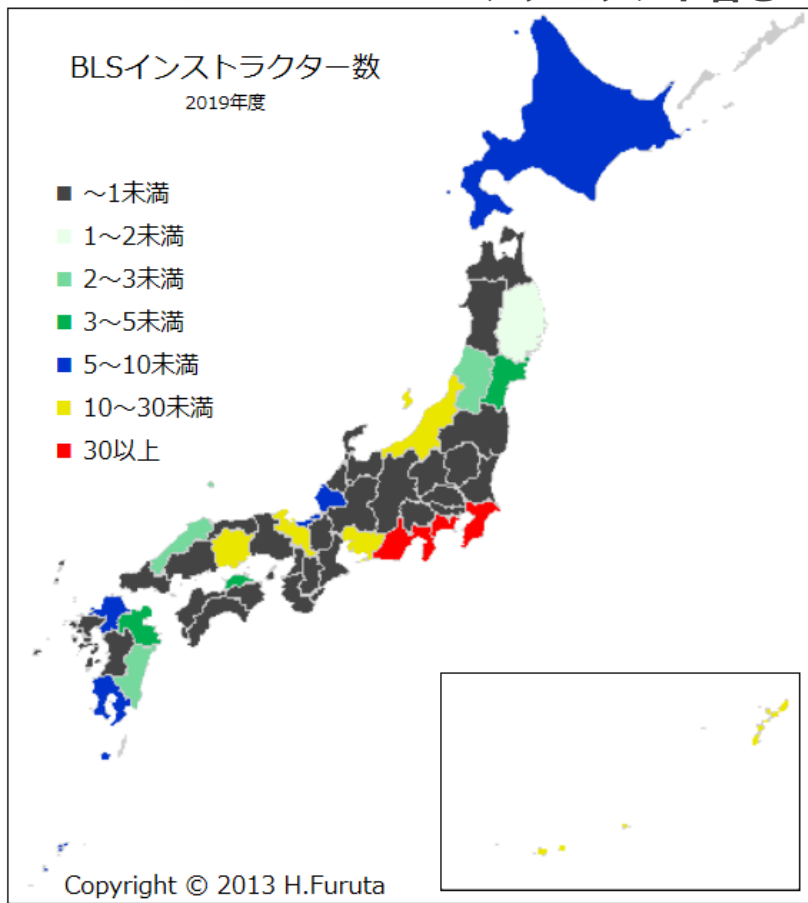
サーフADVANCE取得率 (ADVANCE取得数/BASIC取得者数) : **29.9%**



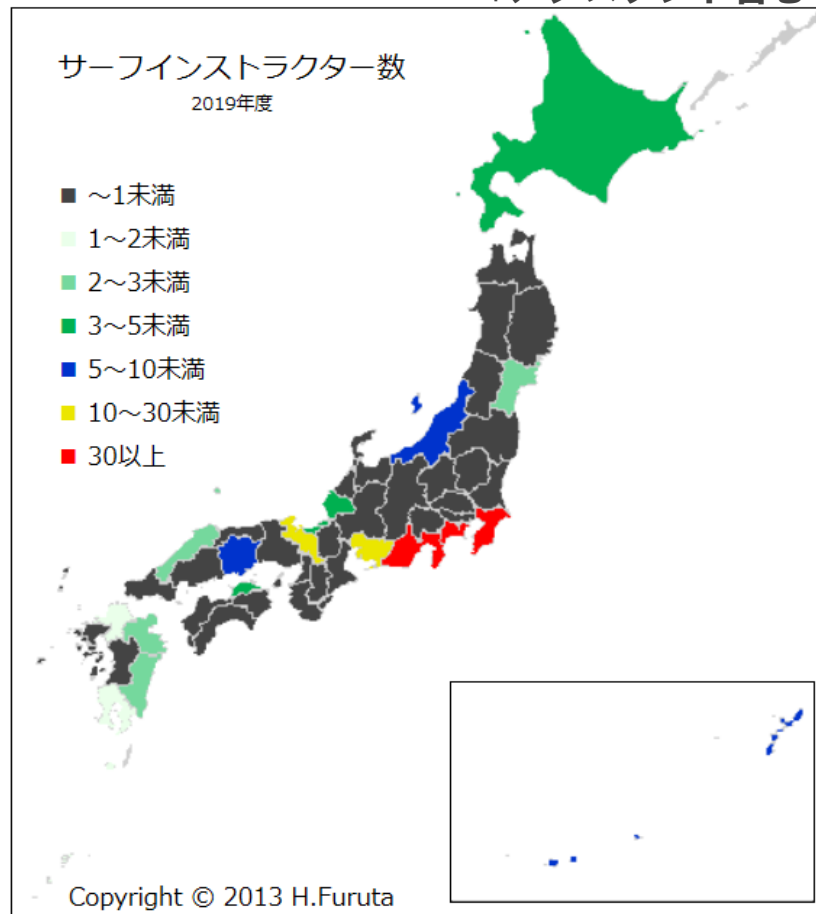
- ・ **静岡 (62.7%)** **沖縄 (59.0%)** → **非常に高い**
- ・ **愛知 (37.6%)** **千葉 (34.0%)** **福井・北海道 (33.3%)** → **高い**
→静岡・愛知・千葉はBASIC取得者も、ADVANCE取得者も多い
- ・ **京都 (26.5%)** **神奈川 (25.6%)** **新潟 (22.4%)** **岡山 (17.2%)** **福岡 (11.9%)**
→BASIC取得者は多いが、ADVANCE取得者が少ない

日本におけるLSの現状

BLSインストラクター分布：320人
*アシスタント含む



BLSインストラクター分布：216人
*アシスタント含む



千葉:75 神奈川:74 静岡:54 岡山:18
京都:17 沖縄:16 愛知:15 新潟:11

千葉:59 神奈川:62 静岡:32 京都:10
愛知:10 沖縄:8 岡山:8 新潟:6

日本におけるLSの現状

■日本の人口を約1.26億人とすると(資格取得者:77,837人)

→約1,619人に1人の資格取得者

■年間の海水浴客数を760万人(レジャー白書2017)とすると,

→単純計算でライフセーバー(資格取得者*BLS/WS含む)一人当たり約98人の海水浴客を対応(しかし日本の場合, 資格取得者が全員パトロール活動に従事しているわけではない. 実際にはその数倍の海水浴客を一人のライフセーバーが対応している)

■他の同種な活動との比較

○日本赤十字社救急法受講者:年間529,010人(2019年)

○日本赤十字社水上安全法受講者:年間70,151人(2019年)

○消防団員数:全国で831,982人(2019年)の団員が登録

■豪州では?

○SLSAメンバー:176,443人(2018-19年)*ジュニア含む(62,603人)

○パトロールメンバー:43,092人(2018-19年)

○ブロンズメダリオン取得者:6,746人(2018-19年)

○オーストラリアの人口を約2,499万人とすると, 約142人に1人がSLSAメンバーであり, 約580人に1人がパトロールに参加している.

各データソース

①WHO（世界保健機構） Global report on drowning（2014）

世界各国の溺水事故に関する統計

http://www.who.int/violence_injury_prevention/global_report_drowning/en/

②厚生労働省 人口動態調査

日本における不慮の事故（溺水等）統計

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1.html>

③警察庁 水難事故

日本における夏期及び年間水難統計

<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/sounan.html>

③海上保安庁 海上保安統計年報救難統計

日本における海上での事故統計

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/doc/hakkou/toukei/toukei.html>

⑤消費者庁 子供の事故防止に関する関係府省庁連絡会議資料

子供の水難事故などに関する統計がまとめられている

http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/other/children_accident_prevention.html

⑥日本ライフセービング協会

レスキューレポートの統計

■図表の作成

P2-35	JLAアカデミー本部	風間隆宏
P36-48	JLA溺水防止救助救命本部	石川仁憲
P48-63	JLAアカデミー本部	風間隆宏